

5) 時間配分

区 分	多すぎる	多 い	妥 当	少 ない	少なすぎる
講 義		1	11		
討 論		1	8	1	2
実 習		1	4	4	3
見学/視察			11		

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥 当	きつい	きつすぎる
		9	2	1

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
	12	1

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	11	1
視 聴 覚 教 材	11	1
実 習 用 教 材	11	1

7. 研修に関する注目すべきコメント

- パソコン演習にもっと時間を割り当ててほしい。(PNG、マレーシア)
- 講義は、一方的なプレゼンテーションでなく、ケーススタディーや演習を加えてほしい。(シンガポール)

8. 改善・検討すべき課題

- GIの資格要件にはコンピューターの基礎的知識を有することが条件となっているが研修員の中にはその知識に欠ける者があったので研修員の選考方法につ

いて検討を要する。

- 講義の他、ケース・スタディーや演習を多く取り入れるよう改善してゆきたい。

9. 研修実施経費

8,863千円

政府会計検査セミナー研修日程

月 日	科 目	実施場所	担 当
7.2(月)	研修員来日		
3(火)	集合ブリーフィング	HITC	
4(水)	JICAによるオリエンテーション	"	
5(木)	"	"	
6(金)	日本の会計検査制度、財政・会計制度	"	布施副長(国際)
7(土)			渡辺係長(国際)
8(日)			
9(月)	日本政府、公共企業体等におけるEDPシステムの概要	特許庁、本院 JICST	市川上席(情報)特許庁 日本科学技術情報センター
10(火)	カントリーレポート発表・討議	HITC	市川上席(情報), 勝野副長(国際)
11(水)	"	"	須山調査官(情報)
12(木)	本院のコンピュータシステムの紹介	"	NTT
13(金)	コンピュータ概論(ソフト・ハード)	"	
14(土)			
15(日)			
16(月)	視察旅行(花と緑の博覧会)	大 阪	勝野副長(国際)
17(火)	"	"	鈴木主任(国際)
18(水)	パーソナルコンピュータによる演習 (基本ソフトの紹介)	HITC	須山調査官(情報) 土肥調査官(上科) 高橋調査官(通産) 山田調査官(鉄道) 渡辺調査官補(情報) 高柳調査官補(情報) 武市調査官補(情報)
19(木)	"	"	
20(金)	システム監査概論	"	松尾明(公認会計士)
21(土)			
22(日)			
23(月)	"	"	"
24(火)	"	"	"
25(水)	"	"	"
26(木)	コンピュータ化されたシステムの検査 (検査事例紹介会) 総長招宴	本 院 明治記念館	関口総括(情報) 佐藤副長(情報)
27(金)	コンピュータの工場見学	日立神奈川	勝野副長(国際)
28(土)		工場(秦野)	倉口事務官(国際)

月 日	科 目	実施場所	担 当
7.29(日) 30(月)	コンピュータを利用した検査 (検査事例紹介会)	H I T C	奥村副長 (情報)
31(火)	パーソナルコンピュータによる演習 (課題)	//	須山調査官 (情報)
8. 1(水)	//	//	土肥調査官 (上科) 高橋調査官 (通産) 山田調査官 (鉄道)
2(木)	//	//	渡辺調査官補 (情報) 高柳調査官補 (情報) 武市調査官補 (情報)
3(金)	総括討議、修了証書授与	本 院	
4(土)			
5(日)			
6(月)	評価会、閉講式	H I T C	
7(火)	研修員帰国		
8(水)	//		

注1 研修時間は10:00~12:00及び13:30~16:00とする。

2 主な研修宿泊施設は、国際協力事業団八王子国際研修センター (H I T C) とする。

(11) 補装具製作技術コース

1. 応募・選定・受入 (定員 4 名)

地 域	1) 応募国	2) 受入国及び人数
ア ジ ア	マレーシア、インドネシア タイ、フィリピン	マレーシア、インドネシア タイ
中 近 東	イラク	イラク
アフリカ		
南 米		
そ の 他		
計	5ヶ国	4ヶ国 4名
応募率	5 / 4 = 1.25	

2. 研修プログラム構成

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1) ジェネラル・オリエンテーション
2Se | 2) 日本語講習 (集中)
100Hr |
| 3) 講 義
18Se
(英語講義率 40%) | 4) 実 習
100Se (50日) |
| 5) カントリーレポート発表 | 6) 日本義肢装具学会に出席
4日 |
| 7) 見 学
4ヶ所 | 8) 研修旅行
京都名古屋 4泊5日 |

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

Manual of Manufacture of Protheses and Orthoses V011~5 他

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等
特になし

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

2) 最も関心が多く有益な項目

A/K Prothesis

Functional Anatomy I. II.

Upper Extremity Prothesis

3) 要望のあった追加項目

○ Rehabilitation of Amputees (イラク)

○ Elongation of Period for Orthotics and Prosthetics (イラク)

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
		4			4

5) 時間配分

区分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講義		1	3		
討論			2	1	1
実習			4		
見学/視察			4		

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥当	きつい	きつすぎる
1		3		

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
	4	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	1	3
視 聴 覚 教 材	3	1
実 習 用 教 材	4	

7. 研修に関する注目すべきコメント

講義と実習が平行して行われた方が良かったのではないか (イラク)

8. 改善・検討すべき課題

テキストの不備が指摘されているので改善して行きたい。

9. 研修実施経費

9,296千円 (内委託経費9,021千円)

平成2年度補装具製作技術コース日程表

日		時		研 修 内 容		備 考
月	日	曜	時間	テ ー マ	講 師	
8	27	月	9:00~16:00	オリエンテーション		
	28	火	9:00~12:00	開講式・オリエンテーション		
			13:00~16:00	センター内見学		
			17:00~18:30	歓迎会		
	29	水	9:00~12:00	機能解剖Ⅰ(上肢)	宮前珠子	国立リハビリテーション研究所室長
			13:00~16:00	機能解剖Ⅱ(下肢)	金子雄登	国立リハビリテーション研究所室長
	30	木	9:00~12:00	下肢装具とフットウェアの装具	渡辺英夫	佐賀医科大学整形外科教授
			13:00~16:00	東海リハビリの装具	初山泰弘	国立リハビリテーション研究所室長
	31	金	9:00~12:00	作業療法士と装具	矢野 潔	大野中央病院リハビリテーション室長
			13:00~16:00	理学療法士と装具	川井伸夫	国立リハビリテーション病院理学療法士長
9	1	土	休			
	2	日	休			
	3	月	9:00~12:00	近年の装具	田沢英二	国立リハビリテーション学院主任教官
			13:00~16:00	日本の装具	川村 一郎	川村装具株式会社社長
	4	火	9:00~12:00	切断とリハビリテーション	澤村 誠志	兵庫県リハビリテーション付属中央病院長
			13:00~16:00	大腿切断と義足	武智秀夫	吉備高原医療リハビリテーション病院長
	5	水	9:00~12:00	材料学	田村 徹	国立リハビリテーション研究所装具士長
			13:00~16:00	装具の材料	田沢英二	国立リハビリテーション学院主任教官
	6	木		施設見学(東京身体障害者福祉センター)		
				〃 (小原工業)		
	7	金		〃 (神奈川県総合リハビリテーション)		
	8	土	休			
	9	日	休			
	10	月	9:00~12:00	下腿義足の製作工程	橋本尚次	橋本装具製作所装具士
			13:00~16:00	実習(下腿義足) (12.5日)	橋本 真江	
	11	火	9:00~16:00	〃		
	12	水	9:00~16:00	〃		
	13	木	9:00~16:00	〃		
	14	金	9:00~12:00	義 手	中島英哉	兵庫県リハビリテーション付属中央病院整形外科部長
			13:00~16:00	下腿切断と義足	川村次郎	大阪労災病院リハビリテーション診療科部長
	15	土	休	(敬老の日)		
	16	日	休			
	17	月	9:00~16:00	実習(下腿義足)		
	18	火	9:00~16:00	〃		

日		時		研 修 内 容			備 考
月	日	曜	時 間	テ ー マ	講 師		
9	19	水	9:00~16:00	実習(下履裁足)			
	20	木	9:00~16:00	〃			
	21	金	9:00~16:00	〃			
	22	土	休				
	23	日	休	(秋分の日)			
	24	月	休	(振替休日)			
	25	火	9:00~16:00	〃			
	26	水	9:00~16:00	〃			
	27	木	9:00~12:00	〃			
			13:00~16:00	〃 (下履裁足のまとめ)	中程光明	中履裁製製作所(元カク-副裁縫適合士長)	
	28	金	9:00~12:00	〃	〃	〃	
			13:00~16:00	試験(下履裁足)			
	29	土	休				
	30	日	休				
10	1	月		研修旅行			
				〃 (労災加ヒリ工学センター)			
	2	火		〃 (中部労災病院)			
	3	水		〃 (京都見学)			
	4	木		〃 (兵庫県加ヒリ工学センター)			
	5	金		〃			
	6	土	休				
	7	日	休				
	8	月	9:00~12:00	大履裁足の製作工程	小池隆俊	国立加ヒリ-研究所裁縫器具士	
			13:00~16:00	実習(大履裁足) (13.5日)	小池・西川		
	9	火	9:00~16:00	〃			
	10	水	休	(体育の日)			
	11	木	9:00~16:00	〃			
	12	金	9:00~16:00	〃			
	13	土	休				
	14	日	休				
	15	月	9:00~16:00	〃			
	16	火	9:00~16:00	〃			
	17	水	9:00~16:00	実習(大履裁足)			
	18	木	9:00~16:00	〃			
	19	金	9:00~16:00	〃			
	20	土	休				

日 時			研 修 内 容		備 考
月	日	曜 時 間	テ ー マ	講 師	
10	21	日 休			
	22	月 9:00~16:00	〃		
	23	火 9:00~16:00	〃		
	24	水 9:00~16:00	〃		
	25	木 9:00~12:00	〃		
		13:00~16:00	〃 (大規模足のまとめ)	大坪政文	中部リハビリテーション専門学校鞋装具学科教務主任
	26	金 9:00~12:00	〃	〃	〃
		13:00~16:00	試験(大規模足)		
	27	土 休			
	28	日 休			
	29	月 9:00~12:00	靴手の製作工程	高橋功次	国立川北リハビリテーション研究所鞋装具士
		13:00~16:00	実習(靴手) (11.5日)	高橋・岡本	
	30	火 9:00~16:00	〃		
	31	水 9:00~16:00	〃		
11	1	木 9:00~16:00	〃		
	2	金	日本鞋装具学会に出席		富山市
	3	土	〃		〃
	4	日	〃		〃
	5	月	〃		〃
	6	火 9:00~16:00	実習(靴手)		
	7	水 9:00~16:00	〃		
	8	木 9:00~16:00	〃		
	9	金 9:00~16:00	〃		
	10	土 休			
	11	日 休			
	12	月 休	(即位礼正殿の儀の日) <i>on the 2nd day</i>		
	13	火 9:00~16:00	実習(靴手)		
	14	水 9:00~16:00	〃		
	15	木 9:00~12:00	〃		
		13:00~16:00	実習(靴手のまとめ)	星野 薫	田沢靴装製作所(元シスター靴装適合士長)
	16	金 9:00~12:00	〃	〃	〃
		13:00~16:00	試験(靴手)		
	17	土 休			
	18	日 休			
	19	月 9:00~12:00	装具の製作工程	栗山明彦	国立川北リハビリテーション学院教員
		13:00~16:00	実習(装具) (12.5日)	栗山	

日 時			研 修 内 容		備 考
月	日	曜 時 間	テ ー マ	報 師	
11	20	火 9:00~16:00	実習(装具)(12.5日)		
	21	水 9:00~16:00	〃		
	22	木 9:00~16:00	〃		
	23	金 休	(勤労感謝の日)		
	24	土 休			
	25	日 休			
	26	月 9:00~16:00	〃		
	27	火 9:00~16:00	〃		
	28	水 9:00~16:00	〃		
	29	木 9:00~16:00	〃		
	30	金 9:00~16:00	〃		
12	1	土 休			
	2	日 休			
	3	月 9:00~16:00	〃		
	4	火 9:00~16:00	〃		
	5	水 9:00~12:00	〃		
		13:00~16:00	〃 (装具のまとめ)	徳田章三	熊本総合医療福祉学院装具学科主任講師
	6	木 9:00~12:00	〃	〃	〃
		13:00~16:00	試験(装具)		
	7	金 9:00~16:00	研修のまとめ		
		17:00~18:30	七夕送別会		
	8	土 休			
	9	日 休			
	10	月 9:00~ 9:30	開講式		
		9:30~12:00	JICA科協会		
	11	水	徳国準備		
	12	木	帰 国		

(12) ハイテク・リサーチコース

1. 応募・選定・受入 (定員 5 名)

地域	1) 応募国及び人数	2) 受入国及び人数
	㉠メカトロ工学 ㉡木材加工工学	㉠メカトロ工学 ㉡木材加工工学
アジア	マレーシア、フィリピン、タイ(2)	マレーシア フィリピンタイ
中近東	トルコ (4)	トルコ
南米	ブラジル (2)	ブラジル
計	2ヶ国 3名 3ヶ国 7名	2ヶ国 2名 3ヶ国 3名
応募率	5 / 5 = 1	

2. 研修プログラム構成

1) ジェネラル・オリエンテーション 6Se	2) 日本語講習 (集中) 95Hr
3) 研究テーマ a. メカトロ技術の応用 b. インテリアエレメント及び木造住宅部材の生産加工システム	4) レポート作成 14Se
5) 見学 a. 6ヶ所 b. 9ヶ所	6) 研修旅行 a. 熊本・九州方面 5泊6日 長野方面 3泊4日 b. 北海道方面 4泊5日 京都・広島方面 4泊5日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教材

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

特になし

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
			3	2	5

2) 最も関心が多く有益な項目

NC Language and Programming

Survey of Manufacturing System

NC Router Machine

3)

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
		4	1		5

5) 時間配分

区分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講義			2	1	
討論			4	1	
実習			5		
見学/視察			5		

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥当	きつい	きつすぎる
		4	1	

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
1	4	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	3	2
視 聴 覚 教 材	-	-
実 習 用 教 材		

7. 研修に関する注目すべきコメント

研究の参考に出来る英語の文献が少ない (ブラジル)

パソコンによる制御に関しては時間が少なかった (フィリピン)

研究を行うには期間が短かすぎる (マレーシア)

8. 改善・検討すべき課題

ニーズが高く有益な研究テーマの選択と研究期間の延長について引続き検討を要する。

9. 研修実施経費

5,105千円 (内委託経費4,918千円)

平成2年度海外技術研修員集団研修課程 ハイテク・リサーチコース年間研修計画

	(平成2年) 7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
研修内容			9/3 (月)			12/25 1/4 (2W)		2/21 (水)
	7/26 (水)	8/31 (金)	9/3 (月)	9/17 (15W)	12/21 (金)	1/7 (月)	1/21 (6W)	2/21 (水)
				研修旅行 ※10/1-10/5 (1W)			研修旅行 ※11/21-11/25 (1W)	
メカトロ技術の応用				多岐面ロボット運動制御理論の修得	多岐面ロボット運動制御手法の修得	多岐面ロボット運動制御手法の修得	研究まとめレポート作成	
インテリアエレメント及び未遊性宅部材の生産加工システム				多岐面ロボット運動制御理論の修得	多岐面ロボット運動制御手法の修得	多岐面ロボット運動制御手法の修得	研究まとめレポート作成	
				NC言語とプログラミング CAD/CAM 生産システムの現状調査	パソコンによる自動制御	パソコンによる生産システムの制御	研究まとめレポート作成	
	(J I C A)	(I V T)						

- 1 政府の変更る研修期間は、平成2年7月26日から平成3年2月24日までとなっているが、8月31日まではJICAにおいて、日本語等の研修を行うので、本校の担当する研修は、9月3日から翌年2月21日まで(25W)とする。
- 2 本校の担当する研修内容は、次のとおりとする。
[研修] 研修旅行(2W) 研修旅行(2W) 特別休暇(2W) 左記、専門研修は、小笠原見学、印刷法、印刷法、印刷法、印刷法を含む。
- 3 授業は週5日とし、1日は原則として、午前10時から午後4時10分までとする。
- 4 ※印の日曜日は各コースによって多少の変更がある。

海外技術研修員ハイテク・リサーチコース研修計画書

(1990年度)

1. 研究テーマ

メカトロ技術の応用

2. 目的

近年、様々な分野で製品の高品質化、低価格化、さらには顧客ニーズの多様化、個性化に伴う製品の少量多品種化等に対応するために、積極的に製品受注から生産、販売までの工程の機能化・自動化が図られている。

この試みにおいて根幹と成っている技術がメカトロニクス技術であります。この技術の最も重要な点はメカニクス、エレクトロニクス、情報（主としてコンピュータが担う）等を如何にして目的に合致するように総合化する（機能的に組み合わせる）かにあります。本研修ではメカトロニクスの象徴でもあるロボット、特に、前途の要求に対し近年研究開発が盛んに行われている多関節ロボットを研修対象として取り上げ、各要素に関する技術修得はもとより総合化の能力を養うことを目的としております。

3. 研究内容

(1) 多関節ロボットのモデリングとシミュレーション技法の修得

ロボットのモデリングは、ロボットの運動方程式の記述法と、その中に現れる物理定数の同定法とに分けられる。本研修ではそれぞれの方法の修得に加え、未だ確立されていないダイナミクスを考慮した方法についても研究・修得する。

(2) 多関節ロボットの運動計測技法の修得

ロボットが目的に合致するように動作するためには、自身の動作状態の把握は基より作業対象との相互作用の把握が必要となる。本研修では位置、速度、トルクの計測法のほか、相互作用力の計測法およびそれらの情報処理技法等について修得する。

(3) 多関節ロボットの運動制御手法の修得

(1) (2) に係わる基礎的制御技法の修得に加え、特に、あいまい性を包含

した制御技法についても研究・修得する。

4. 使用機器および装置

パーソナルコンピュータ(PC9801)

試作多関節ロボット(8自由度)

各種計測器(福祉工学科実習棟)

5. 参考書

テキスト(自作)

Proc.ISIR(1980~1989)

6. 日 程

(1) 多関節ロボットのモデリングとシミュレーション技法の修得 (4w)

(2) 多関節ロボットの運動計測技法の修得 (6w)

(3) 多関節ロボットの運動制御手法の修得 (7w)

(4) レポート作成 (6w)

海外技術研修員ハイテク・リサーチコース研修計画書

(1990年度)

1. 研究テーマ

インテリアエレメント及び木造住宅部材の生産加工システム

2. 目的

インテリアエレメントはもとより、木造住宅部材等の加工も最近では工場生産方式になりつつある。この種のシステムを発展させ、今後より合理的に管理・運営するためにはこれらのハードウェアとソフトウェアに関する基礎的事項を十分に理解・把握しておく必要がある。

そこで、本研修では、まず市販NC加工機のソフトウェアとCAD/CAMシステムの利用法を学ぶ。次にメカトロニクスの基礎として、パソコンによる自動計測と制御システムのそれぞれについて設計・試作することによってこの種のシステムのハード・ソフト両面を学び、更に、生産現場の現状も調査する。

このことによって、生産システムの評価をしたり、現場の技術的問題の処理をしたりする能力を養う。

3. 研究内容

(1) NC言語とプログラミング

将来の生産システムにおいては、メカトロニクス応用機器が主体になると考えられる。その代表的な工作機械として、数値制御機械が挙げられる。数値制御機械の主要な言語は、機種やメーカーに係わりなく万国共通である。

そこで、数値制御(NC)機械におけるNC言語とプログラミングの手法を修得させ、併せてNC工作機械の特徴と制御装置について理解させる。さらに、NCルータによる木材の切削実験を通して、加工精度と加工能率の工場を図るためのツーリング技術を学習させる。

(2) CAD/CAM

コンピュータに入力した形状データを紙の上に図形出力するだけでなく解析やシュミレーションに用いたりNCデータに変換してNC加工機に転送できれ

ば設計から生産の広い範囲にわたりコンピュータの利用が可能となる。これがCAD/CAMシステムを導入する理由である。上記のマニュアルプログラミングでは手に負えないモデルについて、本校設置のCAD/CAMシステムを用いモデリング、カットパスの作成およびNC加工機へのデータの転送と一連の流れを経験しコンピュータを授用した設計・生産システムの考え方を理解する。

(3) パソコンによる自動計測

生産加工の自動化を前提とし、ライン上の自動計測と加工システムの状態(正常・異常状態の検出を含む)をインプロセス計測することの2つを取扱う。従って、アナログ・デジタルの基本回路、A/D変換及び描画ソフトの基本を学ぶ。

(4) パソコンによる生産システムの制御

ここでは市販NCとは別に、マイクロコントローラによる制御を取扱う。即ち、マイコン/パソコンとドライバでマイクロコントローラを構成し、代数演算方式DDA方式によって制御する。このシステムを試作することによって、数値制御をハード・ソフト両面から学ぶ。

(5) 生産システムの現状調査

インテリアエレメントと木造住宅部材の生産システムの現状を把握するために、2、3社を対象としてその実態を調査する。

4. 使用機器

NCルーター, 試作CNC

パーソナルコンピューター(PC9801)

5. 参考書

数値制御(自作テキスト)

6. 日 程

1) NC言語とプログラミング	4 W
2) CAD / CAM	4 W
3) パソコンによる自動計測	4 W
4) パソコンによる生産システムの制御	4 W
5) 生産システムの現状調査	2 W
6) リポート作成	5 W

(13) 職業訓練管理セミナー

1. 応募・選定・受入(定員10名)

地 域	1) 応募国及び人数	2) 受入国及び人数
ア ジ ア	カンボジア フィリピン(3)、タイ	カンボジア フィリピン(2)、タイ
中 近 東	スーダン、イエメン	イエメン
アフリカ	ケニア、モーリシャス	ケニア、モーリシャス
南 米	ブラジル、グアテマラ(2) ホンジュラス、パナマ	ブラジル、グアテマラ ホンジュラス、パナマ
そ の 他	PNG(2)	PNG
計	12ヶ国 16名	11ヶ国 12名
応募率	12 / 10 = 1.2	フィリピン1名は個別参加

2. 研修プログラム構成

1) ジェネラル・オリエンテーション 6 Se	2) 日本語講習 20Hr
3) 講 義 21Se (英語講義率 15%)	4) 実 習 /
5) カントリーレポート発表 14Se	6) レポート作成 /
7) 見 学 8ヶ所	8) 研修旅行 広島・京都 4泊5日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

Japanese Working Life Profile

Textbook for Seminar on Training Management in Vocational Training Institutions

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

フィリピン女性研修員1名は妊娠による体調不調を訴え9月29日早期帰国した。

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
		6	2	2	10

2) 最も関心が多く有益な項目

Outline of Humane Resources Development Administration

Trade Skill Test

Leadership of the Supervisory Personnel and it's Performance

Cost-Effectiveness of Training

Vocational Training Methods

3) 要望のあった追加項目

Financial Management of Voc. Training (フィリピン)

International Technical Cooperation in Voc Training Field (ホンデュラス)

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
1	1	8	2		12

5) 時間配分

区 分	多すぎる	多 い	妥 当	少 ない	少なすぎる
講 義		2	9	1	
討 論			4	7	1
実 習			3	1	6
見学/視察		1	7	4	

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆ る い	妥 当	き つ い	きつすぎる
	2	9		

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
	9	4

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	12	0
視 聴 覚 教 材	10	2
実 習 用 教 材	6	6

7. 研修に関する注目すべきコメント

通訳に時間を要するので英語による講義が望ましい。(モーリシャス)

先端技術に関する施設見学の機会が無く残念であった。(タイ、ホンジュラス)

8. 改善・検討すべき課題

- 施設訪問に先立ってオリエンテーションがあれば、一層の効果が期待出来る。
- カントリーレポートの発表には労働省他多くの関係者の出席を求め活発な質疑が出来れば効果的である。

- 英語による講義を増やす他視聴覚教材の利用により研修員の理解を深める。

9. 研修実施経費

3,042千円

平成2年度職業訓練管理セミナー日程

月日	曜	午 前	午 後	備 考
8. 23	木	来日		
24	金	フリーフィング		
25	土	フリー		
26	日	フリー		
27	月	センターオリエンテーション	同 左	ティーパーティー
28	火	一般オリエンテーション		
29	水	同上		
30	木	同上		
31	金	同上	(都内見学)	
9. 1	土	フリー		
2	日	フリー		
3	月	プログラムオリエンテーション	同 左 同 左	写真撮影
4	火	労働省訪問 総務省次官補佐 職業能力開発局長 講義：職業能力開発行政の国際協力：寺岡		
5	水	講義：職業能力開発行政の概要と白紙書		
6	木	講義：監修技能検定山本類		
7	金	講義：職業訓練施設の管理運営と心得		
8	土	フリー		
9	日	フリー		
10	月	講義：監修職業能力開発評価師江崎國		
11	火	カンントリーレポート討議	カンントリーレポート討議	
12	水	カンントリーレポート討議	カンントリーレポート討議	
13	木	カンントリーレポート討議	カンントリーレポート討議	
14	金	カンントリーレポート討議		
15	土	フリー（敬老の日）		
16	日	フリー		
17	月	カンントリーレポート討議	カンントリーレポート討議	
18	火	カンントリーレポート討議	カンントリーレポート討議	
19	水	カンントリーレポート討議	カンントリーレポート討議まとめ	
20	木	施設訪問：職業訓練大学校・職業訓練研究研修センター		
21	金	施設訪問：高度技能開発センター・海外職業訓練協会		
22	土	小学校訪問（八王子市立美山小学校）		
23	日	フリー		
24	月	（振替休日）		
25	火	施設訪問：国立職業リハビリテーションセンター		
26	水	企業訪問：日産自動車村山工場、東電学園高等部		
27	木	施設訪問：NEC		
28	金	講義：リーダーシップ：浅野		
29	土	フリー		東京ディズニーランド
30	日	フリー		
10. 1	月	講義：監修専技法安江潤		
2	火	講義：監修専技法安江潤		
3	水	講義：監修専技法安江潤		
4	木	講義：監修専技法安江潤		

① 講師：通称記載
② 講師の敬称略

月日	曜	午前	午後	備考
5	金	講義：製図解法と交差法		
6	土	フリー		
7	日	フリー		
8	月	研修旅行：移動：八王子-----広島、	施設訪問：広島技能開発センター	広島泊
9	火	同上：企業訪問：マツダ	市内見学	広島泊
10	水	同上：(体育の日)	移動：広島-----京都	京都泊
11	木	同上：施設訪問：陶工高等技術専門学校	市内見学	京都泊
12	金	同上：移動：京都-----八王子		
13	土	フリー		
14	日	フリー		
15	月	施設訪問：東京工業高等専門学校・立川公共職業安定所		
16	火	総括討議		
17	水	評価会、閉講式	反省会	
18	木	帰国準備		
19	金	帰国		

◎1 講師：浦沢隆雄
◎2 講師の敬称略

(14) 衛生行政セミナー

1. 応募・選定・受入 (定員14名)

地域	1) 応募国及び人数	2) 受入国及び人数
アジア	カンボディア、ネパール フィリピン、タイ (2)	カンボディア、ネパール フィリピン、タイ
中近東	イエメン	イエメン
アフリカ	ケニア	ケニア
南米	ブラジル (3)、パラグアイ ペルー (3)、ウルグアイ	ブラジル (2)、パラグアイ ペルー (2)、ウルグアイ
その他	PNG	PNG、ポーランド (5) 個
計	11ヶ国 16名	12ヶ国 18名
応募率	11 / 14 = 0.78	

2. 研修プログラム構成

1) ジェネラル・オリエンテーション	2) 日本語講習
-	10Hr
3) 講義	4) 実習
18Se	/
(英語講義率 93%)	
5) カントリーレポート発表	6) レポート作成
4Se	/
7) 見学	8) 研修旅行
8ヶ所	石川県 4泊5日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教材

National Health Administration in Japan

Educational Handbook of Health Policy Service

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

特になし

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
	1	8	4	1	14

2) 最も関心が多く有益な項目

Medical Facilities and Medical Personnels

Community Health

Pension and Health Insurance Systems

Maternal and Child Health

TB and Leprocy Control

3) 要望のあった追加項目

Emergency Services

Health Administration and Management of Institution

Manpower Planning

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
		10	3	1	14

5) 時間配分

区分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講義	6	2	5		
討論			3	5	6
実習					
見学/視察		1	7	3	3

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥当	きつい	きつすぎる
	3	8	3	

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
4	10	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	12	2
視 聴 覚 教 材	10	4
実 習 用 教 材	-	-

7. 研修に関する注目すべきコメント

- 討議の時間を多くすべきであり、日本側の意見だけではなく研修員からの意見を聞きながら討議すればもっと有益である。(ペルー)
- 実際に病院の業務を詳細に見たかった。(フィリピン)
- 講師は大学や研究所のスタッフの方がより良い役割を果たした。(ブラジル)

8. 改善・検討すべき課題

- 討論の機会が少ないとの意見も多く、本セミナーの効果的運営について関係者の一層の協力をお願いしたい。
- 講師の選定についても検討を要する。

9. 研修実施経費

6,769千円(内委託経費4,019千円)

平成2年度衛生行政セミナー日程表

月日	曜	内 容			テーマ
		午 前 (10:00-12:00)	午 後 (13:00-15:00)	後 (15:15-17:15)	
9/1	土	研修員到着			
2	日	研修員到着			
3	月	ディナーレセプション(八王子ホテル)			
4	火	開講式	日本の歴史		
5	水	厚生省表敬	厚生省の歴史、組織と概況		
6	木	地域保健医療	衛生統計	医療施設と 医療従事者	保健政策、 衛生行政
7	金	カトリック-1			
8	土	休日			
9	日	休日			
10	月	カトリック-2			
11	火	国立医療機関	救急と僻地の 医療体制	産科保健 健康増進栄養	医療資源の 有効活用
12	水	らい・結核	その他の感染症	ワクチン	感染症対策
13	木	腎・難病	成人病	がん	疾病対策
14	金	年金	医療保険	老人保健	社会保障
15	土	祭日			
16	日	東京→金沢			
17	月	フィールドトリップ(石川県)			
18	火	フィールドトリップ(石川県)			
19	水	フィールドトリップ(石川県)			
20	木	フィールドトリップ 金沢→東京			
21	金	国立病院医療センター	PT総括		地方の衛生 行政
22	土	休日			
23	日	休日			
24	月	祭日			
25	火	母子保健	学校保健	薬務行政	母子保健
26	水	精神保健	水道・廃棄物	食品保健 公害対策	環境衛生
27	木	労働衛生	人口工学	保健医療協力 保健技術 研究機関	保健医療 協力
28	金	閉講式			
29	土	研修員帰園			
30	日	研修員帰園			

(15) 森林管理計画コース

1. 応募・選定・受入 (定員15名)

地 域	1) 応募国	2) 受入国及び人数
ア ジ ア	バングラデシュ、中国 インドネシア、タイ マレーシア	バングラデシュ、中国 インドネシア (2)、 マレーシア、フィリピン (2)、 タイ (2)
中 近 東	チュニジア	チュニジア
アフリカ	ケニア、タンザニア	ケニア、タンザニア (2)
南 米	ブラジル、コロンビア ホンジュラス、ウルグァイ	ブラジル、コロンビア ホンジュラス、ウルグァイ
その他	PNG	PNG
計	14ヶ国	14ヶ国 18名

応募率 14 / 15 = 0.93

2. 研修プログラム構成

1) ジェネラル・オリエンテーション 6Se	2) 日本語講習 (集中) 75Hr
3) 講 義 27Se (英語講義率 73%)	4) 実 習 26Se
5) カントリーレポート発表 2Se	6) フォーラム討論 6Se
7) 見 学 9ヶ所	8) 研修旅行 九州方面 5泊6日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

林業講習所で独自に開発した教材を使用する。

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

ホンジュラス研修員は仕事の都合により研修終了前の12月9日帰国した。

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
	4	11	3		18

2) 最も関心が多く有益な項目

Aerial Photography and Remoto Sencing

Forest Mensuration

Forest Soil Analysis

3) 要望のあった追加項目

Watershed Management (バングラデシュ)

Tropical Forest Ecology (インドネシア)

Soil Conservation (タンザニア)

Economical Aspects of Forestry in Japan (ウルグァイ)

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
1	4	9	2	2	18

5) 時間配分

区 分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講 義	5	3	6	3	1
討 論			5	8	4
実 習			10	6	2
見学/視察			4	6	8

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥当	きつい	きつすぎる
	1	13		3

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
8	10	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	10	9
視 聴 覚 教 材	11	7
実 習 用 教 材	15	3

7. 研修に関する注目すべきコメント

講義より実習と視察のプログラムを多くして欲しい（ホンジュラス、ケニア、フィリピン）

多くの講義のレベルが初歩的である。（フィリピン）

テキストが不十分であり、熱帯林管理について英文のテキストが欠けている（インドネシア、マレーシア）

熱帯林について講師が理解していない（インドネシア）

8. 改善・検討すべき課題

本年度開始した研修コースであり、受入準備が不十分であったので今後テキストの整備等改善を要する。

9. 研修実施経費

12,940千円（内委託経費12,011千円）

研 修 実 施 日 程

月	曜	第1・2時限 (9:35~12:25)		第3・4時限 (13:25~16:15)		
		科 目	講 師	科 目	講 師	
10	月	オリエンテーション	パソコン実習	宮 崎	開 講 式	
1						
2	火	カントリーレポート				林野庁 JOECA JICA
3	水	日本の森林・林業	嶋	森林計画制度	岡	
4	木	ガイダンス	宮 崎	森林計画制度	高 澤	
5	金	日本の森林・林業	浅 川	森林計画制度	井 上	
6	土					
7	日					
8	月	パソコン実習	宮 崎	特別講義	宇津木	
9	火	測樹・成長量調査法				上 野
11	木	測樹・成長量調査法（実習）				上 野 石 堀 井
12	金	測樹・成長量調査法				上 野
13	土					
14	日					
15	月	測樹・成長量調査法（実習）				上 野 石 堀 井
16	火	測樹・成長量調査法	上 野	土壌調査	太 田	
17	水	土壌調査（実習）				太 田 石 堀 井
18	木	森林総合研究所（視察）				太 田 宮 崎

月 日	曜 日	第1・2時限 (9:55~12:25)		第3・4時限 (13:25~16:15)	
		科 目	講 師	科 目	講 師
19	金	森林総合研究所（視察）			太田 宮崎
20	土				
21	日				
22	月	今市営林署管内（視察）			岩下
23	火	今市営林署管内（視察）			岩下
24	水	測樹・成長量調査法	上野	空中写真解析法	中島
25	木	空中写真解析法			中島
26	金	空中写真解析法	中島	パソコンを利用した データ整理	櫻田 堀
27	土				
28	日				
29	月	空中写真解析法			中島 川村
30	火	空中写真解析法			中島 川村
31	水	空中写真解析法			中島
11	木	空中写真解析法			中島 川村
2	金	空中写真解析法			中島 川村
3	土				
4	日				
5	月	地域開発論	森	空中写真解析法	中島

日	曜	第1・2時限 (9:35~12:25)		第3・4時限 (13:25~16:15)	
		科 目	講 師	科 目	講 師
6	火	空中写真解析法			中島村
7	水	空中写真解析法	中島	リモートセンシング	中島
8	木	リモートセンシング			中島
9	金	国際航業講(視察)			中島 石井
10	土				
11	日				
12	月				
13	火	リモートセンシング	中島	特別講義	神足
14	水	基本図作成演習			堀
15	木	パソコンを利用したデータ整理			櫻田 堀
16	金	パソコンを利用したデータ整理			櫻田 堀
17	土				
18	日				
19	月	パソコンを利用したデータ整理			櫻田 堀
20	火	野生生物管理論	丸山	パソコンを利用した データ整理	櫻田 堀
21	水	パソコンを利用した データ整理	櫻田 堀	林業と森林環境の調和	薄木
22	木	高尾国有林(見学)			石井
23	金				
24	土				

月 日	曜 日	第1期 2時限 (9:55~12:25)		第3期 4時限 (15:25~18:15)	
		科 目	講 師	科 目	講 師
25	日				
26	月	東京ディズニーランド(視察)			石井
27	火	森林調査簿作成演習			櫻田堀
28	水	森林調査簿作成演習			櫻田堀
29	木	森林調査簿作成演習	櫻田堀	特別講義	秋山
30	金	国際熱帯木材機関視察	石井	特別講義	フリーザイラ
1	土				
2	日				
12 3	月	熊本営林局管内見学旅行			石井
4	火	熊本営林局管内見学旅行			石井
5	水	熊本営林局管内見学旅行			石井
6	木	九州地区民有林見学旅行			石井
7	金	九州地区民有林見学旅行			石井
8	土	大阪営林局管内見学旅行			石井
9	日				
10	月	レクチャー・フォーラム 熱帯林の持続的保全利用のために			松原 甚志 ほか
11	火	レクチャー・フォーラム 熱帯林の持続的保全利用のために			松原 崎辺 ほか

月 日	曜 日	第1・2時限 (9:35~12:25)		第3・4時限 (13:35~16:15)	
		科 目	講 師	科 目	講 師
12	水	レクチャー・フォーラム 熱帯林の持続的保全利用のために			渡 二 ほか
13	木	レポート作成			宮 崎
14	金	森林調査簿実習 (発表)	宮 崎 根 田	評価会	閉講式

(16) 一般租税コース

1. 応募・選定・受入 (定員20名)

地域	1) 応募国及び人数	2) 受入国及び人数
アジア	中国 (2)、香港、インド (2) インドネシア、マレーシア (2) タイ (2)、パキスタン フィリピン (2)、シンガポール スリランカ (2)	中国、香港、インド インドネシア、マレーシア、 タイ、フィリピン (2) シンガポール、スリランカ
中近東	エジプト (2)	エジプト、サウディアラビア
アフリカ	エティオピア (2) スーダン、スワジランド	エティオピア、 スーダン、スワジランド
南米	ブラジル (3)、パラグアイ ウルグアイ、ハイティ セントルシア	ブラジル、ハイティ パラグアイ、ウルグアイ

その他

計 21ヶ国 30名 19ヶ国 20名

応募率 21 / 20 = 1.05

2. 研修プログラム構成

1) ジェネラル・オリエンテーション 6Se	2) 日本語講習 24Hr
3) 講義 44Se (英語講義率 40%)	4) 実習 /
5) カントリーレポート発表 8Se	6) レポート作成 22Se

7) 見 学

10ヶ所

8) 研修旅行

京都・広島・岡山 4泊5日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

An Outline of Japanese Tax Administration 他

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

特になし

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
		9	4	7	20

2) 最も関心が多く有益な項目

Tox administration in developing countries

International tax issues

Criminal investigation

Tax compliance and self assessment system

Tax treaty

3) 要望のあった追加項目

Tax tribunal

Computer auditing

Transfer pricing

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
7	1	10			18

5) 時間配分

区 分	多すぎる	多 い	妥 当	少 ない	少なすぎる
講 義	2		17		1
討 論			11	3	5
実 習					
見学/視察		1	14	3	

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥 当	きつい	きつすぎる
1	1	15	1	1

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
3	17	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	20	
視 聴 覚 教 材	15	5
実 習 用 教 材	-	-

7. 研修に関する注目すべきコメント

- 講師は研修員の注意を惹くためにも討論すべきである。 (エジプト)
- 講師がテキストを読むだけならば事前に研修員に読ませ討論する方が有益である。 (スワジランド)
- 研修期間が長すぎ、マイナーなトピックスは簡単にし、又同種の視察は省略すべきである。 (フィリピン、エルビラ)
- レポート発表について専門家によるアドバイスがあれば意義深いものとなる。

(フィリピン、ジョセフィン)

8. 改善・検討すべき課題

討論機会の増加や、発表レポートに対する講評など本コースの効果的運営について引続き検討を要する。

9. 研修実施経費

7,817千円

平成2年度国際税務行政セミナー一般租税コース日程表

月日)	(午 前)	(午 前 講 師)	(午 後)	(午 後 講 師)	講義場所
9. 17	月 開講式(国税庁主催)		オリエンテーション		国税庁
18	火 カントリー・レポート発表		カントリー・レポート発表		HITC
19	水 関東信越国税局管内視察		関東信越国税局管内視察(工務)		
20	木 同上(日光)		同上(日光)		
21	金 同上(鹿沼税務署)		同上		
25	火 カントリー・レポート発表		カントリー・レポート発表		HITC
26	水 同上		同上		同上
27	木 同上		同上		同上
28	金 同上		同上		同上
10. 1	月 まどめの時間①	コースリーダー	国税庁の現状及び税務運営方針	総務課	国税庁
2	火 日本の財政	大臣官房調査企画課長	日本の税制	主税局調査課長	同上
3	水 資産税Ⅰ	税務大学校	資産税Ⅰ	資産税課	HITC
4	木 法人税Ⅰ	税務大学校	法人税Ⅰ	法人税課	同上
5	金 開発途上国と日本の税制	ホム税務行政研究所長	開発途上国と日本の税制	ホム税務行政研究所長	国税庁
8	月 まどめの時間②	コース・リーダー	日本ビニール視察		HITC
9	火 所得税Ⅰ	税務大学校	所得税Ⅱ	所得税課	同上
11	木 法人税Ⅱ	法人税課	法人税Ⅳ	調査課	同上
12	金 源泉徴収制度Ⅰ	法人税課	源泉徴収制度Ⅱ	法人税課	同上
15	月 開発途上国と日本の税制	ホム税務行政研究所長	開発途上国と日本の税制	ホム税務行政研究所長	HITC
16	火 同上	同上	同上	同上	同上
17	水 研修制度	税務大学校	国際セミナー研修生との対談	同上	若松校舎
18	木 国際セミナー研修生との対談	同上	同上	同上	同上
19	金 所得税Ⅲ	所得税課	所得税Ⅳ	所得税課	HITC
22	月 東京国税局視察		豊町税務署視察		HITC
23	火 資料情報事務	資料調査課	消費税の概要	消費税課	同上
24	水 徴収Ⅰ	税務大学校	徴収Ⅱ	徴収課	同上
25	木 債権管理事務	管理課	権利経済制度	国税不服審判所	同上
26	金 ADPの概要	事務管理課	ADPセンター視察		朝霞
29	月 広報	広報課	税務相談	税務相談官室	HITC
30	火 KSK構想	企画課	まどめの時間③	コースリーダー	同上
31	水 査察事務	査察課	国際的税務協力Ⅱ	国際業務室	同上
11. 1	木 人事管理	人事課	福利厚生	厚生課	同上
2	金 福岡研修旅行		福岡研修旅行		
5	月 国際的税務協力Ⅰ	税務大学校	国際的税務協力Ⅰ	税務大学校	HITC
6	火 国際的税務協力Ⅳ	中里 実助教授	国際的税務協力Ⅳ	中里 実助教授	同上
7	水 国際的税務協力Ⅲ	五味謙治先生	国際的税務協力Ⅲ	五味謙治先生	国税庁
8	木 国際的税務協力Ⅴ	石黒一憲助教授	国際的税務協力Ⅴ	石黒一憲助教授	HITC
9	金 米國と日本の税制	オールドマン教授	米國と日本の税制	オールドマン教授	同上
13	火 税を知る週間視察(八王子署等)		税を知る週間視察		HITC
14	水 論文作成		論文作成		同上
15	木 同上		同上		同上
16	金 同上		同上		同上
19	月 論文作成		論文作成		HITC
20	火 同上		同上		同上
21	水 同上		同上		同上
22	木 同上		同上		同上
26	月 広島国税局視察		広島国税局視察(岡山方面)		
27	火 同上(広島局)		同上(広島市内)		
28	水 大阪国税局視察(松下技術館)		大阪国税局視察(大阪局)		
29	木 同上(金剛寺等)		同上(真山)		
30	金 同上(京都市内)		同上		
12. 3	月 東京証券取引所視察		国会議事堂視察		
4	火 横浜税関視察		横浜税関視察		
5	水 まどめの時間④	コースリーダー	まどめの時間⑤	コースリーダー	HITC
6	木 日産自動車村山工場視察		日産自動車村山工場視察		
7	金 日本テレビ視察		日本テレビ視察		
10	月 論文発表		論文発表		HITC
11	火 同上		同上		同上
12	水 同上		同上		同上
13	木 同上		同上		同上
14	金 閉講式				国税庁

(17) 犯罪防止（刑事司法）コース

1. 応募・選定・受入（定員15名）

地 域	1) 応募国及び人数	2) 受入国及び人数
アジア	インドネシア、韓国 マレーシア、パキスタン (5) インド (2)、フィリピン (2) シンガポール、スリランカ (3) タイ (2)	インドネシア、韓国 マレーシア、パキスタン インド、フィリピン (2) シンガポール、スリランカ、 タイ (2)
中近東	サウディアラビア、スーダン	サウディアラビア、スーダン
アフリカ	ケニア、タンザニア (3)	ケニア、タンザニア
南米	コスタリカ、ヴェネズエラ	コスタリカ、ヴェネズエラ
その他	フィジー、PNG	フィジー、PNG
計	17ヶ国 28名	17ヶ国 19名

応募率 17 / 15 = 1.13

2. 研修プログラム構成

1) ジェネラル・オリエンテーション 4 Se	2) 日本語講習 20Hr
3) 講 義 21Se (英語講義率 93%)	4) 討議及会議 9 Se
5) 個人発表 12Se	6) レポート作成 2 Se
7) 見 学 18ヶ所	8) 研修旅行 栃木方面 1泊2日 水戸方面 1泊2日 丸亀・京都方面 3泊4日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

1) Statutes of Japan

2) Explanation on Some Aspects of Japanese Criminal Justice System

他

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

タンザニア研修員が糖尿病のため通院治療

6. 研修実施経費

6,330千円（内委託経費5,939千円）

平成2年度犯罪防止(刑事司法)コース研修日程表

月 日	曜	研修内容(午前)	研修内容(午後)	備 考
9月10日	月	来 日		
11	火	ブリーフィング		
12	水	センターオリエンテーション	同左	ティーパーティー
13	木	一般オリエンテーション	同左	
14	金	一般オリエンテーション	同左	
15	土	一般オリエンテーション	同左	
16	日	フ リ ー		
17	月	UNAFEIへ移動・入所登録	自己紹介・オリエンテーション	歓迎パーティー
18	火	所長講義	広報映画・教官面接・外人登録	
19	水	次長講義	日本の刑事司法制度 (1)	
20	木	日本の刑事司法制度 (2)	日本の刑事司法制度 (3)	
21	金	高尾山懇親ハイキング		
22	土	フ リ ー		
23	日	フ リ ー		
24	月	(振替休日) フリー		
25	火	日本の刑事司法制度 (4)	個人発表	
26	水	講義: デフィオー氏(1)	個人発表	
27	木	訪問: 最高裁判所	訪問: 法務省	事務次官招宴
28	金	個人発表	個人発表	
29	土	フ リ ー		
30	日	フ リ ー		
10月1日	月	講義: デフィオー氏(2)	個人発表	
2	火	個人発表	自 習	
3	水	訪問: 横浜税関		
4	木	講義: デフィオー氏(3)	個人発表	
5	金	個人発表	運 動 会	
6	土	フ リ ー		
7	日	フ リ ー		
8	月	個人発表	個人発表	
9	火	個人発表	講 義	
10	水	(祝日) フリー		
11	木	訪問: 関東委員会・東京保護観察所		

月 日	曜	研修内容 (午前)	研修内容 (午後)	備 考
12	金	個人発表	個人発表	
13	土	フ リ ー		
14	日	フ リ ー		
15	月	講義：ステンク氏(1)	小集団討議	
16	火	訪問：府中刑務所	訪問：サンシャイン60	乙子刑政財印 乙子シヨウ
17	水	講義：ステンク氏(2)	小集団討議	
18	木	研修旅行 移動：府中……→宇都宮		宇都宮泊
19	金	研修旅行 移動：宇都宮……→府中		
20	土	フ リ ー		日本文化
21	日	フ リ ー		
22	月	小集団討議	講義：ステンク氏(3)	
23	火	小集団討議	講義	
24	水	訪問：警視庁	訪問：科学捜査研究所	
25	木	小集団討議	講義	
26	金		訪問：サントリー工場	
27	土	フ リ ー		
28	日	フ リ ー		
29	月			
30	火	小集団討議	講義	
31	水		訪問：八王子医療刑務所	
11月1日	木	フィールド・ワーク		
2	金	フィールド・ワーク		
3	土	フ リ ー		
4	日	フ リ ー		
5	月	小集団討議		
6	火	講義：ブラック女史(1)	講義：	
7	水	訪問：海上保安庁		
8	木		小集団討議	
9	金		訪問：地検・地裁・家裁	
10	土	フ リ ー		
11	日	フ リ ー		
12	月	(休日)フ リ ー		
13	火	講義：ブラック女史(2)	小集団討議	
14	水	訪問：中央青年の家		

月 日	曜	研修内容 (午前)	研修内容 (午後)	備 考
15	木	講義：ブラック女史(3)		
16	金	講義：国連	小集団討議	
17	土	訪問：府中競馬場		
18	日	フ リ ー		
19	月	講義：国連		
20	火	訪問：ディズニーランド		
21	水	全体会議	全体会議	
22	木	全体会議	全体会議	
23	金	(祝日)フリー		
24	土	フ リ ー		
25	日	フ リ ー		
26	月	講 義	自 習	
27	火	研修旅行		
28	水	研修旅行 訪問：丸亀少女の家		
29	木	研修旅行 訪問：		
30	金	研修旅行		
12月1日	土	フ リ ー		
2	日	フ リ ー		
3	月	レポート発表	レポート発表	
4	火			
5	水	評 価 会	個人面接	
6	木	資料調査	閉 講 式	送別パーティー
7	金	移 動	東京国際研修センター入館	
8	土	帰国準備		
9	日	”		
10	月	帰 国		
(客)		Mr. Michael A. Defeo	= アメリカ合衆国連邦司法省組織 犯罪対策部副部長	
		Mr. Suchinta Uthairathna	= タイ国警察大学校長	
		Dr. Dorothy F.M. Blach	= 英国保健省主席医事技監	

(18) 建設機械整備コース

1. 応募・選定・受入 (定員8名)

地域	1) 応募国及び人数	2) 受入国及び人数
アジア		
中近東		
アフリカ	ベナン、中央アフリカ (2) ガボン、ギニア、ニジェール トーゴ、ザイール	ベナン、中央アフリカ (2) ガボン、ギニア、ニジェール トーゴ、ザイール
南米		
その他		
計	7ヶ国 8名	7ヶ国 8名

応募率 $7/8=0.88$

2. 研修プログラム構成

1) ジェネラル・オリエンテーション 4Se	2) 日本語講習 36Hr
3) 講義 18Se (英語講義率 3%)	4) 実習 50Se
5) カントリーレポート発表 2Se	6) レポート作成 8Se
7) 見学・視察 7ヶ所	8) 研修旅行 広島・岡山・大阪・京都 4泊5日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

Construction Equipment Service Manual他

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

なし

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
1		6			1

2) 最も関心が多く有益な項目

建設機械概論

燃料、潤滑油

油圧

3) 要望のあった追加項目

部品倉庫の運営管理 (ベナン)

道路建設 (中央アフリカ)

人事管理 (ニジェール)

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
		4	1	3	8

5) 時間配分

区 分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講 義	1		6		1
討 論			7		1
実 習		1	2	1	4
見学/視察		1	5		2

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥当	きつい	きつすぎる
	1	6		1

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
1	7	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	8	
視 聴 覚 教 材	7	1
実 習 用 教 材	8	

7. 研修に関する注目すべきコメント

教えられた科目が研修員に理解されたかどうか確かめるためにテストを実施することを検討されても良い。(ザイール)

8. 改善・検討すべき課題

整備技術の実習が足りないことを指摘する研修員が多いが末端技術の習得よりもむしろ管理能力の向上を目的とすることを理解させることが必要である。

9. 研修実施経費

5,535千円(内委託経費3,854千円)

平成2年度建設機械整備コース（仏語）研修日程表

月日	曜	種目	内 容	講 師	場 所
10. 15	月		カントリーレポード	MOC, JICA, JCMA	HITC
16	火		表敬、コース・オリエンテーション	MOC, JCMA	MOC
17	水	Lec.	建機概論、運営管理	中野	HITC
18	木	〃	建機所有経費、建機施工能力	佐藤、太田	〃
19	金	〃	建機材料	小岩	〃
20	土				
21	日				
22	月	Obs.	日野自動車工業(株)	河合	日野
23	火	Lec.	電・装 品	池永	HITC
24	水	〃	燃料、潤滑油	〃	〃
25	木	〃	建機整備概論	倉田	〃
26	金	〃	建機整備工場、運営管理	〃	〃
27	土				
28	日				
29	月	Lec.	溶 接	山本	HITC
30	火	Prac.	〃	神戸製鋼所	藤沢
31	水	〃	整備技術、整備設備	マルマ重機商	世田谷
11. 1	木	〃	〃	〃	〃
2	金	〃	〃	〃	〃
3	土				
4	日				
5	月	Prac.	ホイールローダ、ダンプトラック	新キャタピラー三菱	相模原
6	火	〃	〃	〃	〃
7	水	〃	〃	〃	〃
8	木	〃	〃	〃	秩父
9	金	〃	〃	〃	〃
10	土				
11	日				
12	月				
13	火	Prac.	エキスカベータ、クレーン	日立建機	土浦
14	水	〃	〃	〃	〃
15	木	〃	〃	〃	〃
16	金	〃	〃	〃	〃
17	土	Lec.	建機部品検査	小倉	〃
18	日				
19	月	Prac.	主要コンポーネント、ブルドーザ、グレーダ	小松製作所	大仁
20	火	〃	〃	〃	〃
21	水	〃	〃	〃	〃
22	木	〃	〃	〃	〃
23	金	〃	〃	〃	〃
24	土				
25	日				
26	月	Prac.	〃	〃	〃
27	火	〃	〃	〃	〃
28	水	〃	〃	〃	〃
29	木	〃	〃	〃	〃
30	金	〃	〃	〃	〃
12. 1	土				
2	日				

12. 3	月	Prac.	ローラ	酒井重工業	栗橋
4	火	"	"	"	"
5	水	"	"	"	"
6	木	Obs.	建設省土木研究所	長	つくば
7	金	"	建設機械化研究所	佐野	富士
8	土				
9	日				
10	月	Trip	研修旅行	マツダ広島工場	広島
11	火	"	"	本四国連絡橋公団	岡山
12	水	"	"	阪南土砂採取現場	大阪
13	木	"	"	小松製作所	京都
14	金	"	"	京都～八王子	
15	土				
16	日				
17	月		レポート作成		HITC
18	火		"		"
19	水		"		"
20	木		"		"
21	金		評価会、閉講式		"

(19) バス・トラック整備技術コース

1. 応募・選定・受入 (定員12名)

地域	1) 応募国	2) 受入国及び人数
アジア		
中近東		
アフリカ	ベナン、ブルキナファソ ブルンディ、中央アフリカ コンゴ、ガボン、ギニア ルワンダ、トーゴ ザイール、ジブティ モーリタニア	ベナン、ブルキナファソ ブルンディ、中央アフリカ コンゴ、ガボン、ギニア ルワンダ、トーゴ、ザイール ジブティ (個)

その他

計 12ヶ国 11ヶ国 11名

応募率 12 / 12 = 1.0

2. 研修プログラム構成

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1) ジェネラル・オリエンテーション
4Se | 2) 日本語講習
36Hr |
| 3) 講義
25Se
(英語講義率 0%) | 4) 実習
27Se |
| 5) カントリーレポート発表 | 6) レポート作成 |
| 7) 見学・視察
13ヶ所 | 8) 研修旅行
広島・神戸・京都・名古屋 |

4泊5日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教材

部品測定法 エンジン、シャシ編

サービスデータ

技術説明基礎

大型、中型トラック用メンテナンスガイド 他

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

特になし

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
		6	3	2	11

2) 最も関心が多く有益な項目

- インジェクションポンプ
- トランスミッション
- エンジン構造
- 電気装置
- ブレーキシステム

3) 要望のあった追加項目

板金、溶接 (ブルキナファソ、トーゴ、コンゴ)

車輛の管理と運用 (ギニア、ルワンダ)

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
		8		3	11

5) 時間配分

区 分	多すぎる	多 い	妥 当	少 ない	少なすぎる
講 義	1	1	7	1	1
討 論	1		6	1	3
実 習			3	3	5
見学/視察		1	8		2

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥 当	きつい	きつすぎる
		7	1	3

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
1	10	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	7	4
視 聴 覚 教 材	9	2
実 習 用 教 材	11	

7. 研修に関する注目すべきコメント

- 現場で働く技術者にとっては実習により多くの時間がさかれるべきである
(ガボン)
- ほとんどの資料が英語であったので仏語のものを用意すべきである
(ルワンダ)
- 全体の期間が短かく、プログラムがつまっていたため、十分な議論の時間がなかった
(ザイール)

8. 改善・検討すべき課題

仏文資料の整備など一層の研修充実を目指し研修員が満足出来るよう努力する。

9. 研修実施経費

4,573千円（内委託経費4,289千円）

平成2年度バス・トラック整備技術コース研修日程

月	日	曜	研 修 内 容		
			午 前	午 後	
1	21	月	開講式、PR映画、研修打合せ、歓迎会		
	22	火	一次学科テスト	日野工場見学	
	23	水	エンジンの基礎	実習 エンジン分解	
	24	木	講義 エンジン構造説明	実習 エンジン分解	
	25	金	講義 シリンダーヘッド	講義 測定具使用方法	
	26	土	休 日		
	27	日	休 日		
	28	月	講義 バルブタイミング、クランク	実習 部品測定	
	29	火	講義 潤滑装置	実習 部品測定	
	30	水	講義 冷却システム	実習 エンジン組立	
	31	木	実習 エンジン組立、コンプレッション測定		
	2	1	金	工場見学 イズミ工業（ピストン製造）川越工場	
		2	土	休 日	
3		日	休 日		
4		月	実習 エンジン組立、調整	実習 エンジン始動テスト	
5		火	講義 インジェクションポンプ 構造説明	実習 エンジン性能試験	
6		水	講義 インジェクションポンプ 構造説明	実習 インジェクションポンプ A型分解	
7		木	講義 ガバナ構造説明	実習 インジェクションポンプ 組立	
8		金	工場見学 ゼクセル（インジェクションポンプ製造）東松山工場		
9		土	休 日		
10		日	休 日		
11		月	休 日		
12		火	講義 ガバナ、タイマ、ノズル、フィードポンプ	講義 タイマ、ノズル、フィードポンプ	
13		水	実習 ガバナ調整 R801	実習 ガバナの調整 R801	
14		木	講義 クラッチ、ブースター	実習 クラッチ分解、組立	
15		金	工場見学 武部鉄工（フレーム製造）相模原工場		
16		土	休 日		
17		日	休 日		
18		月	講義 トランスミッション 構造説明	実習 トランスミッション 分解	
19		火	講義 トランスミッション 構造説明	実習 トランスミッション 点検、組立	
20		水	講義 フロントアライメント説明	実習 F7ASM 分解組立 フロントアライメント 測定	
21		木	講義 ステアリング構造説明	実習 ステアリング分解、組立、調整	
22		金	工場見学 三共フューク（フューク製造）	ブリヂストンタイヤ（タイヤ製造）	
23		土	休 日		
24		日	休 日		

月	日	曜	研 修 内 容		
			午 前	午 後	
2	25	月	講義 パワーステアリング構造説明	実習 パワーステアリング 分解、組立、油圧測定	
	26	火	実習 パワーステアリングオイルポンプ 分解、組立	実習 リアアクスル構造説明	
	27	水	工場見学 日野車体（バスボディ製造）		
	28	木	研修旅行 江ノ島、鎌倉		
3	1	金	同 上 箱根、小田原		
	2	土	休 日		
	3	日	休 日		
	4	月	講義 リアアクスルエア-サスバネ構造説明	実習 デフ 分解	
	5	火	実習 デフ組立、調整	実習 デフ組立、調整	
	6	水	講義 ブレーキ装置（油圧）構造作動説明		
	7	木	講義 ブレーキ（フルエア）構造作動説明		
	8	金	工場見学 日野自動車羽村工場（小型車製造）、光洋精工東京工場（ヘアリング製造）		
	9	土	休 日		
	10	日	休 日		
	11	月	研修旅行 一般研修旅行	広島市内見学	
	12	火	研修旅行 同 上	神戸製鋼所加古川工場見学	
	13	水	研修旅行 同 上	京都市内見学	
	14	木	研修旅行 同 上	名古屋、日本電装安城工場見学	
	15	金	研修旅行 同 上	名古屋より東京へ	
	16	土	休 日		
	17	日	休 日		
	18	月	工場見学 極東開発（トラックボディー製造）		
	19	火	実習 ブレーキ調整	講義 電気基本	
	20	水	講義 スターター、オルタネータ	実習 スターター分解、組立	
	21	木	休 日		
	22	金	実習 オルタネータ分解、組立	最終学科テスト	
	23	土	休 日		
	24	日	休 日		
	25	月	講義 ワークショップマネジメント	ディーラー見学（多摩日野自動車販売）	
	26	火	テスト解答	修了式 日野自動車修了式及び歓送会	
	27	木	閉講式 国際協力事業団 八王子国際研修センター		

(20) 犯罪防止(上級)セミナー

1. 応募・選定・受入(定員20名)

地域	1) 応募国及び人数	2) 受入国及び人数
アジア	バングラディッシュ、中国 香港、インド インドネシア(3) マレーシア(2)、ネパール パキスタン(4) スリランカ(2) タイ(2)、韓国	バングラディッシュ、中国、 香港、インド、インドネシア 韓国、マレーシア(2) ネパール、パキスタン スリランカ、タイ
アフリカ	ボツワナ、ギニア、ケニア	ボツワナ、ギニア、ケニア
南米	ブラジル、エクアドル パラグアイ、ペルー(2)	ブラジル、エクアドル パラグアイ、ペルー
その他	PNG	PNG
計	19ヶ国 28名	19ヶ国 20名

応募率 19 / 20 = 0.95

2. 研修プログラム構成

1) ジェネラル・オリエンテーション 4Se	2) 日本語講習 0
3) 講義 12Se (英語講義率 93%)	4) 比較研究 10Se
5) 全体討議 8Se	
6) 見学・視察 3ヶ所	7) 研修旅行 京都方面 2泊3日

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

Statutes of Japan

Some Aspects of Japanese Criminal Justice System 他

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

特になし

6. 研修実施経費

4,261千円（内委託経費3,804千円）

平成2年度犯罪防止(上級)セミナー日程

月日	曜	午 前	午 後	備 考
1. 21	月	来日・八王子国際研修センター入館		
22	火	ブリーフィング		
23	水	センターオリエンテーション(ティー・パーティーを含む)		写真撮影
24	木	一般オリエンテーション		
25	金	一般オリエンテーション		
26	土	一般オリエンテーション		
27	日	フリー		
28	月	アジア極東犯罪防止研修所(UNAFEI)入所	自己紹介	歓迎レセプション
29	火	講義: UNAFEIの活動と関係の動向	講義: 日本の刑事司法の特色	
30	水	比較研究	比較研究	
31	木	比較研究	比較研究	
2. 1	金	比較研究	比較研究	
2	土	フリー		
3	日	フリー		
4	月	比較研究	比較研究	
5	火	比較研究	比較研究	
6	水	講義: 第8回会議の概要	講義: 開発と犯罪	
7	木	講義: 拘禁と代替策	講義: 開発と犯罪	
8	金	講義: 組織犯罪とテロ	講義: 国連規範とGL	
9	土	フリー		
10	日	フリー		
11	月	フリー(祝日)		
12	火	講義: 国連規範とGL	全体討議	
13	水	全体討議	全体討議	
14	木	最高裁判所訪問	法務省訪問	
15	金	講義: 国際刑事司法プログラム	講義: 拘禁と代替策	
16	土	フリー		
17	日	フリー		
18	月	研修旅行		
19	火	研修旅行		
20	水	研修旅行		
21	木	講義: 少年刑事司法	全体討議	
22	金	全体討議	全体討議	
23	土	フリー		
24	日	フリー		
25	月	未定		
26	火	公開講演会	UNAFEI同窓会	
27	水	全体討議結果報告	全体討議結果報告	
28	木	研修評価	個人面接	
3. 1	金		閉講式	送別パーティー
2	土	東京国際研修センター入館		
3	日	帰国準備		
4	月	帰国		

(21) 環境技術 (大気保全) コース

1. 応募・選定・受入 (定員10名)

地 域	1) 応募国	2) 受入国及び人数
ア ジ ア	インドネシア、マレーシア フィリピン、タイ	インドネシア、マレーシア フィリピン、タイ
中 近 東		
アフリカ	モーリシャス、マダガスカル	モーリシャス
そ の 他		
計	11ヶ国	9ヶ国 9名

応募率 $11 / 10 = 1.1$

2. 研修プログラム構成

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1) ジェネラル・オリエンテーション
6 Se | 2) 日本語講習
20Hr |
| 3) 講 義
21Se
(英語講義率 50%) | 4) 実 習
3 Se |
| 5) カントリーレポート発表
4 Se | 6) レポート作成 |
| 7) 見学・視察
9ヶ所 | 8) 研修旅行
岩国・京都 4泊5日
筑波 2泊3日 |

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

Textbook for Environmental Engineering

英文環境白書 他

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

特になし

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
		6	1	2	9

2) 最も関心が多く有益な項目

Automotive Exhaust Gas Emission Control

Air Pollution Control by Private Sector

Air Pollution Control Administration by Local Government

Environmental Quality Standards and Health Effect

Measurement Technology of Air Pollutants

3) 要望のあった追加項目

Air Pollution Control in Small Scale Factory (タイ)

Global Warming Ozone Hole (メキシコ)

Air Quality Data Management (メキシコ)

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
		4	4	1	9

5) 時間配分

区分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講義	1	1	4	2	
討論			4	1	3
実習				2	6
見学/視察			4	4	

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥当	きつい	きつすぎる
	2	7		

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
1	7	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	9	
視 聴 覚 教 材	9	
実 習 用 教 材	9	

7. 研修に関する注目すべきコメント

- トピックスは表面的に扱われ初歩的であったのでグレードアップしてはどうか。
(メキシコ、タイ、インドネシア)
- 実習の時間が足りなかった (フィリピン、モーリシャス)
- テキストが一貫に作られておらず、配付資料が多かった (ブラジル)
- 科目によっては質疑応答の時間が不十分であった。 (モーリシャス)
- 測定実習は現場でのサンプリングを含めてほしい。 (タイ、マレーシア)
- 導入可能な技術を紹介してほしい。 (インドネシア)

8. 改善・検討すべき課題

教材の整備、実習の充実等研修員の期待に応え得るよう改善して行きたい。

9. 研修実施経費

5,390千円 (内委託経費5,193千円)

国際協力事業団集団研修 環境技術「大気保全」コース

日 程 表

(1991年2月4日(月)～3月12日(火)) No. 1

月日	講義時間	科 目	講師/関係先
2月 4日 (月)	14:00 -14:30 14:30 -16:00	大気保全局長表敬訪問 コースオリエンテーション	大気保全局 企画課
5日 (火)	10:00 -12:30 14:00 -16:30	大気汚染とエネルギー問題 環境基準と健康影響	橋本 浩夫 日本気象協会(気象庁)
6日 (水)	10:00 -16:30	カントリーレポート発表	環境庁、講師 見学先関係者
7日 (木)	10:00 -16:30	カントリーレポート発表	環境庁、講師 見学先関係者
8日 (金)	10:00 -12:30 14:00 -16:30	日本の大気環境政策 排出基準	井村 秀文 日本気象協会(気象庁)
2 月 1 1 日 (月) 建 国 記 念 日			
12日 (火)	10:00 -16:30	大気保全行政	環境庁(気象庁)
13日 (水)	10:00 - 14:00 -16:30	(筑波学園都市へ) 移流と拡散	北林 興二
14日 (木)	9:30 -12:00 13:30 -16:30	移流と拡散 国立環境研究所	水野 達樹
15日 (金)	9:30 -12:00 -16:30	日本自動車研究所 (八王子センターへ)	

月日	講義時間	科 目	講師 / 関係先
18日 (月)	10:00 - 12:30 14:00 - 16:30	光化学大気汚染 地球規模の大気汚染問題	大喜多 敏一 大喜多 敏一
19日 (火)	10:00 - 12:30 14:00 - 16:30	株式会社における大気保全行政 地方自治体における大気保全行政	菱田 一雄 猿田 勝美
20日 (水)	10:00 - 12:30 14:00 - 16:30	環境影響評価 (行政面) 環境影響評価 (技術面)	志々目 直美 (環境庁) 安楽岡 頤
21日 (木)	10:00 - 12:30 14:00 - 16:30	自動車排出ガス規制 悪臭公害行政	塚本 重徳 (環境庁) 小野寺 幸司 (環境庁)
22日 (金)	10:00 - 16:30	企業における大気保全対策	安藤 淳平
25日 (月)	10:00 - 15:32	(岩国市へ)	
26日 (火)	9:30 - 11:30 11:45 - 12:15	三菱レイヨン株式会社大府事業所 広島公團大気汚染モニタリング調査施設	
27日 (水)	9:30 - 12:00 14:00 - 16:30	広島県環境センター 広島市出島西処理場	
28日 (木)	9:30 - 11:30	パプコック日立株式会社 (京都へ移動)	
3月 1日 (金)		(八王子センターへ)	

月日	講義時間	科 目	講師／関係先
3月 4日 (月)	9:30 - 11:30 14:00 - 16:30	電気化学計器 運輸省 東北圏運支局 蛟洲自転車検場	
5日 (火)	9:30 - 12:30 14:00 - 17:00	日本環境衛生センター 大気測定技術	大 歳 恒 彦
6日 (水)	9:30 - 12:00 14:00 - 17:00	大気汚染物質測定実習 大気汚染物質測定実習	環境科学部
7日 (木)	9:30 - 12:00 14:00 - 17:00	悪臭測定技術 悪臭物質測定実習	仲山 仲次 環境科学部
8日 (金)	9:30 - 12:00 14:00 - 16:00	日本鋼管(株) 東浜製作所 電源開発磯子火力発電所	
11日 (月)	10:00 - 12:30 14:00 - 16:30	国営電力事業団 国営電力のメニュー 紹介 実業家上層への技術協力事例紹介	牧野 修 杉田 善和
12日 (火)		八王子国際研修センター主催 評 価会、閉講式、パーティ、反省会	環境庁、日環セ ンター、その他

< 備考・(1)講義使用言語 (2)テキストの補充資料 (3)視聴覚教材の使用機種 >

(22) 職業能力開発行政セミナー

1. 応募・選定・受入 (定員15名)

地 域	1) 応募国及び人数	2) 受入国及び人数
ア ジ ア	マレーシア、ネパール フィリピン、タイ インドネシア (3)	マレーシア、ネパール フィリピン、タイ
中 近 東	スーダン、モロッコ	スーダン
アフリカ	ケニア、ナイジェリア(3) ザンビア	ケニア、ナイジェリア ザンビア (2)
南 米	コロンビア (4) グアテマラ (2)、パラグアイ	コロンビア、グアテマラ パラグアイ

そ の 他

計 13ヶ国 21名 11ヶ国 12名

応募率 13 / 15 = 0.87

2. 研修プログラム構成

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1) ジェネラル・オリエンテーション
6 Se | 2) 日本語講習
16Hr |
| 3) 講 義
9 Se
(英語講義率 36%) | 4) 実 習 |
| 5) カントリーレポート発表、討議
8 Se | 6) レポート作成 |
| 7) 見学・視察
9ヶ所 | 8) 研修旅行
広島・京都 4泊5日 |

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

3. 研修スケジュール

別紙の通り

4. 教 材

Textbook for Seminar on Human Resources Development Administration

5. 研修員の事故・病気・早期帰国等

なし

6. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
		5	3	4	12

2) 最も関心が多く有益な項目

Socio-Economic Change and HRD

Technical Cooperation in the Field of Vocational Training

The System of Skill Test and its Roles

HRD Activities by EPC

3) 要望のあった追加項目

Ministerial Linkages Concerning with Japan's HRDA

Vocational Training in the Future

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
1		10			

5) 時間配分

区 分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講 義	1		10		1
討 論		1	7	2	2
実 習					
見学/視察			11	1	

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥 当	きつい	きつすぎる
		10		2

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
	11	1

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	12	
視 聴 覚 教 材	9	3
実 習 用 教 材	-	-

7. 研修に関する注目すべきコメント

- 日本が共通の制約、問題を克服、解決するためにどの様に組織や制度を動かしているかより深く討論したかった。(マレーシア)

8. 改善・検討すべき課題

特にカントリーレポートの発表のセッションには多くの日本人識者の参加を求め研修員に対し適切なアドバイスをするなど本セミナーのより効果的運営が望まれる。

9. 研修実施経費

3,769千円

平成2年度職業能力開発行政セミナー日程

月	日	曜	午 前	午 後	備 考
2	7	水	来日		
8		金	フリーフィング	同左 (市内案内他)	
9		土	フリー		
10		日	フリー		
11		月	フリー (祝祭日)		
12		火	センターオリエンテーション	同 左	ティーパーティー
13		水	一般オリエンテーション (日本の歴史、文化)	(日本経済) (日本文化紹介映画)	
14		木	(より良い滞日生活のために)	(日本語) (八王子紹介)	
15		金	(日本の教育)	(日本の行政機構)	
16		土	(都 内 見 学)		
17		日	フリー		
18		月	プログラムオリエンテーション	カントリーレポート発表に係る説明	写真撮影
19		火	労働者訪問	講義 (職業開発行政の基本理念)	
20		水	講義 (労働行政の役割・現状と課題)	講義 (労働経済事情と雇用慣行)	
21		木	施設訪問 (立川公共職業安定所)	施設訪問 (国立武蔵野高等職業技術専門校)	
22		金	研修旅行 移動: 八王子→千葉 (海外職業訓練協会・高度技能開発センター) 講義 (社会経済変化と職業能力開発)		千葉泊 (海外職業訓練協会)
23		土	研修旅行 移動: 千葉 → 八王子		
24		日	フリー		
25		月	講義 (雇用促進事業団における職業能力開発事業)	講義 (公共職業訓練の役割と現状)	
26		火	講義 (職業訓練指導員の養成)	講義 (事業内訓練の現状と助成制度)	
27		水	施設訪問 (雇用促進事業団職業訓練大学校・職業訓練研修研究センター)		
28		木	カントリーレポート討議 (1)	カントリーレポート討議 (2)	
3	1	金	カントリーレポート討議 (3)	カントリーレポート討議 (4)	
2		土	フリー		
3		日	フリー		
4		月	講義 (技能検定制度の役割と現状)	講義 (管理・監督者訓練の現状)	
5		火	カントリーレポート討議 (5)	カントリーレポート討議 (6)	
6		水	施設訪問 (未定)		
7		木	カントリーレポート討議 (7)	カントリーレポート討議まとめ	
8		金	施設訪問 (身体障害者リハビリテーションセンター・障害者職業リハビリテーションセンター)		
9		土	フリー		
10		日	フリー		
11		月	研修旅行 移動: 八王子→広島		広島泊
12		火	研修旅行 施設訪問 (マツダ)、市内見学		広島泊
13		水	研修旅行 移動: 広島→京都		京都泊
14		木	研修旅行 施設訪問 (雇用促進事業団京都技能開発センター)、市内見学		京都泊
15		金	研修旅行 移動: 京都→八王子		
16		土	フリー		
17		日	フリー		

18	月	評価会、閉講式	反省会	
19	火	標国準備		
20	水	標国		

(31. 1. 18)

講義時間：午前10時 ～ 12時30分 (休憩時間を含む)

午後2時 ～ 4時30分 (休憩時間を含む)

(23) ハンガリー経営管理コース

1. 委託先

財団法人 日本生産性本部

2. 研修員 10名 (別添研修員名簿参照)

3. 研修期間

平成2年1月16日～3月12日

4. 研修プログラム構成

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1) ジェネラル・オリエンテーション
2Se | 2) 日本語講習
/ |
| 3) 講義
39Se
(英語講義率) | 4) 事例研究
24Se |
| 5) カントリーレポート発表
/ | 6) レポート作成
/ |
| 7) 見学・視察
15ヶ所 | 8) 研修旅行
四国地方 6泊7日
関西地方 6泊7日 |

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

5. 研修スケジュール

別紙の通り

6. 教材

Market Oriented Economy and Strategic Management
Japan's Economic Development and Productivity Movement
Productivity Concept and Japanese Management
Conveyor Operations Manual

7. 研修員の事故・病気・早期帰国等

特になし

8. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
	8		1	1	10

2) 最も関心が多く有益な項目

Productivity Concept and Japanese Management

Marketing Strategy

Profit Analysis by Chart

Productivity Measurement

3) 要望のあった追加項目

Investment and project evaluation

Management skill development

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
1	2	5	1		

5) 時間配分

区分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講義	4	2	4		
討論	1		4	2	3
実習		1			9
見学/視察			5	3	2

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥当	きつい	きつすぎる
	5	5		

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
5	3	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	9	1
視 聴 覚 教 材	5	5
実 習 用 教 材	8	2

9. 研修に関する注目すべきコメント

講義のテーマは良かったものの、実際は違っていた。

英語での講義が少なく、講師との意見交換も十分出来なかった。

理論面に偏りすぎ実践に欠けていた。

日本の経営とは何か結局分からなかった。

10. 改善・検討すべき課題

ハンガリーの実態と問題点を充分考慮し、その改善に一層役立つ実践的カリキュラムの編成が望まれる。

11. 研修実施経費

8,638千円（内委託経費7,527千円）

経営管理コース研修計画書

月 日	曜	研 修 内 容 (午 前)	研 修 内 容 (午 後)
1月16日	水	来 日	
17	木	ブリーフィング・オリエンテーション	
18	金	日本事情等紹介	
19	土	東京都内半日バスツアー	
21	月	JPCオリエンテーション	日本の経済発展と生産性運動
22	火	生産性の概念と日本的経営	
23	水	同 上	事例研究 (企業訪問)
24	木	市場経営と政略経営	
25	金	同 上	事例研究 (企業訪問)
28	月	組織原理	トップ・ミドルの役割
29	火	直接・間接部門の機能と原理低減	
30	水	マーケティング戦略	
31	木	市場分割	顧客分類
2月1日	金	マーケティング・ミックス	調査・分析アプローチ
4	月	長期経営戦略と人材管理	
5	火	人事部門の役割と機能	
6～7	水 木	利益図表を用いた収益性分析	
8	金	事例研究 (企業訪問)	事例研究 (企業訪問)
12～13	火 水	報告式会計と管理会計のシステム及び財務分析	
14～15	木 金	生産性測定と分析	
17	日	四国へ移動	
18～22	月 金	四国地方事例研究	
23	土	東京へ移動	
25	月	インテリジェント・ビルの定義と機能	情報ネットワーク・システム
26	火	同 上	
27	水	戦略情報システム	
28	木	経営技術と専門機能開発	
3月1日	金	技術向上	自己啓発への援助
3	日	関西へ移動	
4～8	月 金	関西地方事例研究	
9	土	東京へ移動	
11	月	評価会・終講式	
12	火	帰 国	

(24) ハンガリー生産管理コース

1. 委託先

財団法人 日本生産性本部

2. 研修員 10名 (別添研修員名簿参照)

3. 研修期間

平成2年1月16日～3月12日

4. 研修プログラム構成

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 1) ジェネラル・オリエンテーション
2Se | 2) 日本語講習
/ |
| 3) 講義
35Se
(英語講義率) | 4) 事例研究
24Se |
| 5) カントリーレポート発表
/ | 6) レポート作成
/ |
| 7) 見学・視察
13ヶ所 | 8) 研修旅行
九州地方 5泊6日
関西地方 6泊7日 |

※Session(Se):半日 Hours(Hr):時間 Day:日

5. 研修スケジュール

別紙の通り

6. 教材

Market Oriented Economy and Strategic Management
Japan's Economic Development and Productivity Movement
Productivity Concept and Japanese Management
Conveyor Operations Manual

7. 研修員の事故・病気・早期帰国等

特になし

8. 研修員の評価要旨

1) 期待満足度

極めて不満足	不満足	普通	満足	大変満足	計
		2	2	6	10

2) 最も関心が多く有益な項目

IE テクニック

QC7つ道具

JITシステム

原価管理システム

TMPシステム

3) 要望のあった追加項目

マーケティング-販売と生産の関係

製造工業における給与体系

日本の会計システム

経営情報システム

4) 研修期間

長すぎる	長い	妥当	短い	短かすぎる	計
	1	9			10

5) 時間配分

区分	多すぎる	多い	妥当	少ない	少なすぎる
講義		3	7		
討論			5	4	
実習				3	3
見学/視察			7	3	

6) 研修密度

ゆるすぎる	ゆるい	妥当	きつい	きつすぎる
	1	7	2	

7) 研修レベル

自分のポストより低い	自分のポストに適切	自分のポストより高い
1	9	

8) 教材の整備状況

区 分	完 備	不 備
テ キ ス ト	8	2
視 聴 覚 教 材	10	0
実 習 用 教 材	6	4

9. 研修に関する注目すべきコメント

見学する工場について事前のインフォメーションがあればもっと理解出来た。

見学は大企業に偏っていたので中小企業を見たかった。

講義よりも実践的なものを追加してもらいたい。

10. 改善・検討すべき課題

訪問先の関連資料、訪問先の選定、工場実習など研修員の希望に応えるよう改善努力したい。

11. 研修実施経費

8,638千円(内委託経費7,527千円)

生産管理コース研修計画書

月 日	曜	研修内容 (午前)	研修内容 (午後)
1月16日	水	来 日	
17	木	ブリーフィング・オリエンテーション等	
18	金	日本事情等紹介	
19	土	東京都内半日バスツアー	
21	月	JPCオリエンテーション	日本の経済発展と生産性運動
22	火	生産性の概念と日本的経営	
23	水	同 上	事例研究 (企業訪問)
24	木	市場経営と戦略経営	
25	金	同 上	事例研究 (企業訪問)
28	月	日本のIEに対する基本概念	生産工程分析
29	火	PQ分析	レイアウト・チャート
30	水	作業時間測定と標準時間	人機械分析
31	木	ワーク・サンプリング	
2月1日	金	ライン・バランスング	事例研究 (企業訪問)
4~5	月・火	生産性計画と統制に関する基本的アプローチ	生産ライン・システム設計
6	水	混合組立ライン	事例研究 (企業訪問)
7	木	工場設計・建設の基本概念	工場管理フローとSLP
8	金	運搬管理システムの計画・設計に関する基本手順	
11	月	九州へ移動	
12~15	火・水・木・金	九州地方事例研究	
16	土	東京へ移動	
18	月	TQCへの段階的アプローチ	QCストーリー
19	火	QCの7つ道具	
20	水	信頼性工学	
21	木	TQCの社内促進とトップ管理者の義務	
22	金	小集団活動	事例研究 (企業訪問)
25	月	原価低減に対するアプローチ	原価管理システム
26	火	価値工学と原価計算システムを通しての原価低減	
27	水	生産管理・統制と標準化	事例研究 (企業訪問)
28	木	JITシステム	
3月1日	金	資材所要量計画	
3	日	関西へ移動	
4~8	月・金	関西地方事例研究	
9	土	東京へ移動	
11	月	評価会・終講式	
12	火	帰 国	

(25) 職業訓練指導員養成 (シンガポール)

1. 委託先

雇用促進事業団職業訓練大学校

2. 研修員

電子工学科 3年 Mr.Sim Choon Kiat

2年 Mr.Sim Wei Choon

2年 Mr.Hu Kwang Hwee

3. 研修期間

平成2年4月1日～平成3年3月31日

4. 研修プログラム

4年生大学生として邦人生徒と同様の授業を受ける。

5. 研修員の事故・病気

なし

6. 研修実施経費

3,197千円 (内委託経費2,904千円)

(26) タイ農協振興プロジェクトC/P研修

1. 委託先

アジア農業協同組合振興機関

2. 研修員

1) Mr.Montri Taworn 39	農業協同組合省	協同組合振興局
2) Mr.Narong Phiromporn 42	〃	〃
3) Mr.Songporn Kongarsa 35	〃	〃
4) Mr.Visutt Chantanahom 51	〃	〃

3. 研修期間

平成2年9月17日～10月25日

4. 研修プログラム

講義 18Se

視察・見学 6ヶ所

研修旅行 鳥取・京都 6泊7日

別添研修日程参照

5. 研修員の事故・病気・早期帰国

なし

6. 研修員の評価

本研修で修得した知識はタイ国の農協の振興のため大変役立つものである。

7. 研修実施経費

2,950千円(委託経費)

1991年タイ農協振興プロジェクト・カウンターパート研修

日 程

平成2年9月25日～10月23日

月・日・(曜)	午前 (9:30~12:00)	午後 (13:30~16:00)	宿泊
9. 25 (火)	研修員対籍/オリエンテーション	研修課題の確認	IDACA
26 (水)	日本の農業の現状 (IDACA 照沼 弘)		"
27 (木)	日本の農村社会の移り変わりと農業団体 (IDACA 高木時三)		"
28 (金)	農協の組織と事業 (IDACA 二神史郎)		"
29 (土)	太田市場見学		"
30 (日)	自由		"
10. 1 (月)	農協の教育活動 (全中 杉本彰緒)		"
2 (火)	農畜産物の生産から販売まで (全中 塚田和夫)		"
3 (水)	農協の営農指導と生産者部会活動の進め方 (藤本 深)		"
4 (木)	生活活動と婦人部組織 (全中 篠塚妙子)		"
5 (金)	農協の信用事業と営農資金の調達 (津久井郡農協 岩田吉一)		"
6 (土)	グループ討議		"
7 (日)	東京→鳥取県へ移動		鳥取市
8 (月)	鳥取県農協中央会訪問/鳥取県経済迎施設見学/鳥取大学乾燥地研究センター		"
9 (火)	八束町農協にて研修		"
10 (水)	(休日) 県内見学		"
11 (木)	倉吉市農協にて研修		"
12 (金)	鳥取市→京都へ移動	/京都市中央卸売市場見学	京 都
13 (土)	京都→東京へ移動		IDACA
14 (日)	自由		"
15 (月)	日本の専門家との自由討議 (三ヶ日町農協 中川 晋)		"
16 (火)	農協の組合員組織による営農活動事例研究 (IDACA 安部幸男)		"
17 (水)	農協の広報活動 (家の光協会 吉田忠文)		平 塚
18 (木)	平塚市中央農協訪問 (農協の営農指導の実際)		"
19 (金)	平塚市中央農協訪問 (農協の営農指導の実際)		IDACA
20 (土)	報告書作成		"
21 (日)	自由		"
22 (月)	報告書作成		"
23 (火)	評価会/閉講式	研修員移動	

4. 研修員受入実績

- 1) 当年度は22集団コースに312名、ハンガリー向2コースに20名個別コースに8名、総計340名の研修員を受入れた。
- 2) よってHITC創設以来、平成2年度までの受入数は累計3,532名となった。

地域別	昭51～平成元年度	平成2年度	累計	
アジア	1,764	158	1,922	(54.43%)
中近東	499	25	524	(14.83%)
アフリカ	444	59	503	(14.24%)
中南米	429	60	489	(13.84%)
オセアニア	53	12	65	(1.84%)
ヨーロッパ	3	26	29	(0.82%)
計	3,192	340	3,532	(100%)

- 3) 当年度初めてHITCの研修に参加した国はハンガリー及びマルタの2ヶ国であった。
- 4) 参考までにJICA全体の平成元年度までの国際機関を除く二国間の研修員受入実績累計は次表の通り、73,186名である。

地域別	29～63年度	平成元年度	累計	
アジア	41,893	2,648	44,541	(60.86%)
中近東	8,223	613	8,836	(12.07%)
アフリカ	5,074	609	5,683	(7.77%)
中南米	11,811	1,061	12,872	(17.59%)
オセアニア	862	122	984	(1.34%)
ヨーロッパ	151	119	270	(0.37%)
計	68,014	5,172	73,186	(100%)

集團研修コース・セミナー一年度別研修員受入実績

(但し当センター開所(昭和51年度)以来平成2年3月末現在)

コース・セミナー名	昭和1年	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元年	2	計
衛生行政セミナー	11	8	10	12	13	13	13	15	15	13	14	9	13	13	18	177
職業訓練指導員コース	43	38	40	41	40	48	49	51	50	51	52	50	49	49	48	699
工学	(10)	(9)	(9)	(10)	(9)	(9)	(9)	(9)	(10)	(8)	(9)	(10)	(10)	(9)	(10)	140
工学	(18)	(9)	(9)	(10)	(8)	(10)	(10)	(8)	(10)	(6)	(6)	(9)	(6)	(8)	(7)	132
工学	(10)	(8)	(10)	(9)	(10)	(9)	(10)	(10)	(10)	(6)	(6)	(6)	(8)	(8)	(7)	125
工学	(9)	(6)	(6)	(6)	(6)	(5)	(6)	(7)	(6)	(7)	(6)	(6)	(5)	(6)	(9)	96
工学	(6)	(6)	(6)	(6)	(7)	(7)	(7)	(7)	(6)	(6)	(7)	(8)	(5)	(6)	(4)	32
工学(製性加工・溶接工学科)	(6)	(6)	(6)	(6)	(7)	(7)	(7)	(7)	(8)	(9)	(9)	(8)	(8)	(7)	(9)	102
監督者訓練セミナー						14	15	16	14	12	12					83
監督者訓練専門系セミナー												14	13	14	7	48
テレビジョン放送管理コース		11	7	10	11	12	9	11	9	10	10	13	10	14	13	150
農業協同組合コース												17	16	15	19	67
国際エレクトロニクスコース(工教)		18	15	17	14	14	15	14	16	16	13	17	12	12	14	193
労働統計政策セミナー			7	10	9	10	11	10	10	10	10	12	9	9	8	115
政府会計検査セミナー				20	18	14	14	14	14	12	13	15	13	13	12	158
ハイテク・リサーチコース											5	5	5	4	5	24
職業訓練セミナー(II)	13	16	15	14	13	13	15	18	16	14	15					149
職業訓練管理セミナー												11	11	10	12	44
一般租税セミナー			27	25	25	25	23	26	24	24	19	20	21	21	20	275
建設機械整備コース											9	8	10	13	8	48
労使関係行政セミナー	10	10	10	9	12	12	13	11	10	10	9	12	9	11	9	145
バス・トラック整備技術コース			8	11	10	10	12	12	11	12	13	10	12	12	11	134
環境技術(大気保全)コース									6	8	10	10	8	12	9	63
職業訓練セミナー(II)	13	15	14	15	8	14	12	12	15	12	8					138
職業能力開発セミナー												12	14	14	12	52
実践的総合生涯進向上コース													10	11	12	33
犯罪防止(矯正保護)コース*															19	19
犯罪防止(刑罰司法)コース*															17	17
犯罪防止(上級)セミナー*															17	17
補装具制作技術コース*															4	4
森林管理計画コース															18	18
ハンガリー生産/経営管理コース															20	20
小計	56	98	113	158	177	202	200	211	210	204	212	235	235	247	332	2,890
別	49	117	73	53	43	26	41	43	51	39	33	27	15	24	8	642
修	105	215	186	211	220	228	241	254	261	243	245	262	250	271	340	3,532
計																

注: 個別研修員として受入れ、集団コースに参加した者は各集団コースの受入実績に含まれる。 *は平成2年度より当センターで実施。

(1) 犯罪防止(矯正保護)コース

国別年度別受入実績

国名	昭和50年	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元年	2	合計
バングラデシュ	3	1		1	1	1		1		1	1						10
カンボディア	2																2
ブルネイ												1					1
中 国										1	1	1	1	1	1		6
香 港	9	1	1	1	1	2		2	2	1	1	1	1	1	1	1	26
イ ン ド	11	1	1	1	1	1		1			1		1			1	20
インドネシア	12	1		1	1			1	1								17
韓 国	10	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1		1	1	1	23
ラオス	5																5
マレーシア	19	1	1	1	1	1		1	1	1		1	1	1	1	1	32
ミャンマー			1														1
ネパール	7	1	1	1	1			1	1		1	1					15
パキスタン	7			1	1	1		1			1	1				1	14
フィリピン	14	1	1	1	2	1		1	1	1	1	1	2	2	2	2	33
シンガポール	11	1	1	1	1	1		2	2	1	1					1	24
スリ・ランカ	11	1	1	1	1	1			1	1	2		2	1	2	2	28
台 湾	10																10
タ イ	16	1	1	1	1	1		1	2	1	1	1	2	2	2	2	35
ヴェトナム	7																7
アフガニスタン	3	1															4
イ ラ ン	8	1	1		1												11
イ ラ ク	2	1	1	1	1	2		1	1	1	1	1					13
ジョルダン																1	1
サウディ・アラビア														1	1	1	3
ス ー ダ ン												1					1
トルコ													1				1
エチオピア			1														1
ケニヤ										1	1	1		1		1	5
レソト													1				1
ナイジェリア												1				1	2
タンザニア												1					1
ブラジル				1						1					2	1	5
チリ								1									1
エクアドル			1														1
ジャマイカ									1			1					2
パルマー								1				1	1		1		4
セントルシア														1	1		2
フィジー	1							1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
バプアニューギニア								1	1	1	1			1	2	1	8
ソロモン諸島														1			1
ト ン ガ				1	1	1											3
西 サ モ ア						1											1
マーシャル諸島														1	1		2
合 計	168	14	14	15	16	15	0	18	16	14	16	17	14	16	19	19	391

(2) 実践的総合生産性向上コース

国別年度別受入実績

国名	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	計
バングラデシュ	1	1	1	3
中国	1			1
フィリピン		2 (内個別1)	1	3 (内個別1)
香港	1	1		2
インド	1	1		2
インドネシア			1	1
マレーシア	1	1	2	4
ネパール	1	1	1	3
パキスタン	1	1	1	3
シンガポール		1		1
スリランカ			1	1
タイ	1	1	2	4
アルゼンチン	1 (個別)		1	2 (内個別1)
ウルグアイ			1 (個別)	1 (個別)
ヴェネズエラ	1	1		2
計	10名	11名	12名	33名(個別3)

(3) 労使関係行政セミナー

国別年度別受入実績

国名	昭和52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	計
Bangladesh				1	1	1	1							1	5
香港						1	1	1	1		1	1	1	1	8
インドネシア	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		14
インド	1	1	1	1					1	1	1	1	1	1	10
大韓民国	1	2		1	1	1	1		1						8
マレーシア	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
ネパール					1						1				2
パキスタン	1										1				2
フィリピン		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
シンガポール	1	2	2	1	1	2(内1)	1	1	1			1	1	1	15(内1)
スリランカ	1		1	1	1	1									5
タイ	1	2	2	1	1	1			1	1	1	1	2	1	15
イラク							1	1		1					3
トルコ					1										1
ボツワナ										1					1
ガーナ													(1)	1	2(内1)
タンザニア								1							1
ザンビア														1	1
アルゼンチン							1								1
ブラジル					1	1	1	1	1	1	2				8
グレナダ											1				1
バルー						1									1
ウルグワイ												1	1		2
フィジー	1							1	1				1		4
キリバス												1			1
ハリニューギニア					1	1	1	1			1				5
サモア										1					1
計	10	10	10	9	12	13 (内1)	11	10	10	9	12	9	11 (内1)	9	145名 (内2)

()内は個別研修員

(4) テレビジョン放送管理コース

国別年度別受入実績

()内は個別研修員

国名	昭和52年	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元年	2年	計
アフガニスタン			1												1
バングラデシュ	1	1	2			1	1	1						1	8
ブルネイ									1						1
中国									1					1	2
インドネシア	1				1	1	1	1		1		2	4(内3)	1(個)	13(内4)
インド							1								1
大韓民国	1														1
マレーシア							1	1	1	1	1			1	6
モルディヴ					1										1
ミャンマー				1	1	1	1	1	1		1				7
ネパール											1		1		2
パキスタン					1	1					1			1	4
フィリピン	1	1			1	1									4
シンガポール		1	1	1											3
スリランカ				1	1		1	1	1		1	1	1		8
タイ	1		1	1	2	1	1	1		1	1				10
エジプト		1				1				1		1	1		5
イラン							1								1
サウディ・アラビア	2								1	1	1				5
チェニジア								1	1						2
トルコ				2	1		1	1							5
アラブ首長国連邦		1					1								2
ボツワナ												1			1
カメルーン													1	1	2
エチオピア													1	1	2
ガボン												1			1
ガーナ	1		1	1					1	1	1			1	7
ジブティ														1(個)	1(個)
ケニア			1									2	1		4
マリ			1												1
ナイジェリア								1	1						2
セネガル										1	1			1	3
ウガンダ		1													1
ザイール			1										1	1	3
ザンビア	1														1
アルゼンチン												1			1
バルバドス														1(個)	1
コロンビア				2	1									1	4
ドミニカ												1	1		2
ガイアナ													1		1
パナマ	1			1	1	1			1						5
ペルー	1	1	1	1	1	1	1				1	1	1		10
メキシコ										2	1				3
ウルグアイ										1					1
ユーゴスラビア												1			1
計	11	7	10	11	12	9	11	9	10	10	13	10	14(内3)	13(内3)	150(内6)名

(5) 農業協同組合コース

国別年度別受入実績

国名	昭和38	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成			
	52年												元年	2年		
アフガニスタン	8															8
バングラデシュ	12			1	2	2		2			1	1		1		22
ブータン	1		1													2
カンディヤ	3															3
フィリピン	23	3	1	2	1	1	1			1	2	1				36
インドネシア	26	1	2	3	2	1	2	1	1		2	1		2		44
インド	16				1	1	2	2	1							23
大韓民国	37						1	1								39
ラオス	7															7
マレーシア	30	1	2			1	1		1		1	1	1*	2		41
ミャンマー	2	1		1	1	1	1	1	1	1		1				11
ネパール	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1		20
パキスタン	7		1													8
シンガポール	1															1
スリランカ	15	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1		2(1*)		29
台湾	19															19
タイ	25	3	2	1	3	1	3	1	1		2	1		2		45
ベトナム	1															1
フィリピン	1															1
エジプト	7		2			1	1	2	1	1		1				16
イラン	15			1												16
イラク	2			2												4
ヨルダン												1				1
モロッコ	2									1						3
チュニジア	8											1				9
エチオピア	4												1			5
ガナ	7			1									1	1*		10
ケニア						1			1	1			1	1		5
リベリア						1							1			2
マダガスカル											1					1
マラウイ							1						1			2
ナイジェリア	11	2	1				2			1			1			18
セネガル											1					1
シエラレオネ													1			1
スウェーデン	4	1	1	1				1					1			9
タンザニア			1						1	1	2			1	1*	7
ウガンダ	5								1					1		7
ザンビア														1		1
アルゼンチン													1			1
ボリビア			1							1			1			3
ブラジル	5	2	2	1	4	1	1	2	2	1	2	1		1		25
コロンビア	2									1	1	1			2	7
ドミニカ共和国	1												1			2
エルサルバドル	1															1
グレナダ									1							1
グアテマラ	1															1
ハイチ													1			1
ホンジュラス	5	1										2		1		9
メキシコ																1
ニカラグア										1						1
パナマ							2	1								3
パラグアイ	4		1			1	1	1	1	1	1	1				12
ペルー	1				1	1		1								4
ボトワナ											1					1
セントルシア								1								1
グエネズエラ												1				1
フィジー					1	1	1	1	1	1						6
計	327	17	20	16	19	17	22	21	18	15	17	16	15 (1*)	19 (3*)		559 (内4*)

注1:大韓民国及び台湾(昭和44年、45年)は研修員(北東アジア計画農協)に参加の。

注2:*0 個別研修員。

(6-A) 職業訓練指導員コース

国別年度別研修員受入実績

国名	昭和38 ~50年	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成 元年	2	計
パプアニューギニア	28			1	3		1		2	1		1					722
フィリピン	26						2		1	1	1	2	3	2	3	1	185
インドネシア	12	6	5	5	5	5	2	4	5	2	3	2	4	1	2	3	132
タイ	11							1		2							18
ラオス	11							2		1							15
ブルネー	11							2		1							15
マレーシア	40	5	4	3	1	1	2	1	4	1	2	3	2	1	1	1	178
シンガポール	40	2	2	1	1	1	1	2	3	4	3	6	7	4	3	5	178
ジャバ	40	2	2	1	1	1	1	2	3	4	3	6	7	4	3	5	178
スマタラ	40	2	2	1	1	1	1	2	3	4	3	6	7	4	3	5	178
小計	218	29	30	32	24	25	27	26	33	28	26	30	24	21	23	21	617
フィリピン			1		1	2	1	1		1	1	2			1	3	717
小計			1		1	2	1	1		1	2	2			1	3	15
アフガニスタン	18	1															25
バングラデシュ	12	2															34
インドネシア	23			2	2	2	3	3	2	2	2						57
ジャバ	4																31
スマタラ	6																73
小計	40	4	2	3	4	4	4	6	2	6	5	2	6	7	5	7	107
ブルネー	5	1															15
フィリピン	2		1														23
インドネシア	6			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
タイ	10																17
ラオス	2																21
ブルネー	5																15
マレーシア	10																18
シンガポール	5																12
小計	37	4	2	5	5	5	6	7	7	13	16	16	15	16	17	5	176
パプアニューギニア	2				1	1	2	1	1								12
フィリピン	2				1	1	1	1	1								9
インドネシア	2	2	2		2	2	2	2	2	1			1	2	3	2	25
タイ	1																1
ラオス	1																1
ブルネー	1																1
マレーシア	3																3
シンガポール	1																1
小計	16	6	3		7	4	10	9	9	2	2	2	5	5	3	11	94
マールク																1	1
小計																1	1
合計	311	43	38	40	41	40	48	49	51	50	51	52	50	49	49	48	1010

(6-B) 職業訓練指導員コース

訓練科目別研修員受入実績 (昭和38年度～平成2年度)

国名	生産機械 (機械)	電気	電子	造形 (木材加工)	産業機械 (自動車)	塑性・溶接	建築	計
バングラデシュ	2	1		2	2	1		7
インドネシア	3	1	1	1				6
タイ	5	3	5	1			4	19
フィリピン	15	4	3	2	10	1	3	38
マレーシア	20	17	15	16	2	9	1	61
ジャバ	9	2	5	2	2	4	3	28
マニラ	3	1	1	6		5	1	17
セブ	8	1	2	5		1		17
ボルネオ	4	1	1	1				7
スマタラ	3	2	1	1				7
スラバヤ	1	1	1	1				4
マカッサラ	1	1	1	1				4
ジャカルタ	1	1	1	1				4
小計	140	146	76	132	56	46	22	617
フィリピン	1	2	1	1	2			7
ジャバ	2			1	3	1		7
小計	3	2	1	2	6	1		15
アメリカ	2	1	3	1	1			8
カナダ	13	9	5	5	1	6	2	39
メキシコ	3	3	1	1	1			10
コロンビア	1	1	1	1	1			5
ペルー	1	1	1	1	1			5
チリ	1	1	1	1	1		2	7
ブラジル	9	9	4	4	1			27
小計	32	28	14	17	6	6	4	107
ブラジル	6	3	1	2	2			14
メキシコ	7	1	2	7	1	4	2	22
コロンビア	2	5	4	10	2	1		24
ペルー	2	2	3	3	1	2	1	14
チリ	6	2	1	5	2	1		17
アメリカ	1	1	1	1	1			5
カナダ	1	1	1	1	1			5
メキシコ	1	1	1	1	1			5
コロンビア	1	1	1	1	1			5
ペルー	1	1	1	1	1			5
チリ	1	1	1	1	1			5
小計	40	29	18	48	21	14	6	176
ブラジル	3	1	3	1	1			10
メキシコ	1	3	1	1	1	2		8
コロンビア	2	5	1	1	3			12
ペルー	2	3	1	2	1			9
チリ	2	2	2	1	1	1		10
アメリカ	2	5	3	5	2			17
カナダ	1	1	1	1	1			5
メキシコ	1	1	1	1	1			5
コロンビア	1	1	1	1	1			5
ペルー	1	1	1	1	1			5
チリ	1	1	1	1	1			5
小計	19	26	23	9	11	6		94
マニラ			1					1
小計			1					1
合計	234	231	133	208	99	73	32	1010

注) 【塑性・溶接】は平成2年度から再編により廃止

(7) 監督者訓練専門家セミナー

国別年度別受入実績

国名	昭和56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	成年2年	計
バングラディシュ	1							1			2
インドネシア	1	1	1	1	1			1	1		7
インド				1	1			2	1	1	6
韓国		1		1	1						3
マレーシア	1	1	1	1				1	1		6
パキスタン							1			1	2
フィリピン	1	1	2	1					2	1	8
シンガポール	1	1	1							1	4
スリ・ランカ		1		1	1	2	1				6
タイ	1	2	1	1	2			2	1	1	11
バハレーン									1		1
エジプト	2		2			1	2				7
ジョルダン	1										1
クウェート			1				1				2
サウディ・アラビア				1					1		2
スーダン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
イエメン								1			1
ガーナ	1	1			1	1	1				5
ギニア					1						1
ケニア	1			1	1	2	1				6
リベリア			1								1
ナイジェリア	1	1	1								3
セネガル						1					1
タンザニア		1	2								3
ザイール		1					1				2
ザンビア								1	1		2
アルゼンティン				1							1
ブラジル		1		2	1	2	1	2	1	1	11
チリ	1						1				2
ドミニカ共和国							2		1		3
エクアドル									1		1
ペルー		1	1	1	1	1					5
ホンデュラス							1				1
メキシコ			1			1					2
パラグアイ								1			1
フィジー									1		1
合計	14	15	16	14	12	12	14	13	14	7	131

(8) 開発エコノミスト(工業)コース

国別年度別受入実績

国名	昭和53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	計
Bangladesh		1	1								1	1		4
中国					1	1	2	1	1	2	1	1	1	11
インド						1	1	1	1		1	1	1	7
インドネシア	1	1	1	1	1	2(1)	2(1)	1						10(2)
韓国	1					1								2
マレーシア	1	1	1	1	1					1		1	1	8
ミャンマー				1			1	1	1					4
ネパール	1	1	1	1			1			1(1)				6(1)
パキスタン	1	1	1					1						4
フィリピン	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	15
シンガポール					1	1								2
スリ・ランカ		1					1	1	1					4
タイ	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
エジプト	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	14
イラン	1		1		1	1								4
イラク	1	1	1							1	1	1		6
ジョルダン	1		1	1										3
モロッコ											1			1
スーダン	1	1	1				1							4
シリア	1			1		1					1	1		5
チュニジア										1			1	2
トルコ								1	1	1			1	4
コモロ											1			1
エチオピア										1				1
ガーナ	1	1				1				1				4
リベリア	1													1
シラレオーネ								1						1
タンザニア				1	1		1							3
ザンビア				1		1								2
アルゼンティン									1	1		1	1	4
ボリビア								1					1	2
ブラジル	1	1	1		2	1	1	1	2	1	1	1	1	14
コロンビア			1				1		1					3
コスタリカ	1							1						2
エクアドル				1	1									2
メキシコ	1		2		1	1	1	1	1	1			1	10
パナマ		1												1
パラグアイ		1			1					1	1	1		5
ヴェネズエラ													1	1
ハワイ													1	1
台	18	15	17	14	15	14	16(1)	16(1)	13	17(1)	12	12	14	193(9)

()内は個別研修員

(9) 労働統計政策セミナー

国別年度別受入実績

国名	昭和54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	計
バングラディシュ				1	1								2
中国								1					1
インドネシア	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
インド	1		1				1	1					4
大韓民国			1										1
マレーシア							1	1	1	1	1		5
モルジブ												1	1
ネパール		1		1			1						3
フィリピン	2		1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	14
シンガポール		1	1		1								3
スリランカ	1	1				1	1			1			5
タイ	1		2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	15
エジプト			1										1
イラク							1	1	1				3
シリア										1	1		2
トルコ							1	1	1				3
ガボン				1									1
ガーナ				2	1				1			1	5
ケニア										1	1	1	3
リベリア								1	1				2
ナイジェリア		1											1
タンザニア	1			1									2
ブラジル		2			1	1	1	1	2	1	1		10
チリ		1	1										2
グアテマラ									1				1
パラグアイ		1			1	2			1	1	1	1	8
ペルー					1								1
ベネズエラ												1	1
フィジー						1							1
キリバス											1		1
バブアニューギニア		1	1										2
計	7	10	9	10	11	10	10	10	12	9	9	8	115

(10) 政府会計検査セミナー

国別年度別受入実績

国名	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	計
バングラディシュ	1	1		1	1	1	1					6
ブルネイ							1	1				2
中国					1	1	1		1	1		5
インド	2	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	14
インドネシア	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
大韓民国	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
マレーシア	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
ミャンマー	1	1	1	1	1			1	1			7
ネパール	1	1	1	1	1	1	1		1	1		9
パキスタン	1	1	1	1	1	1						6
フィリピン	2	2	1	1		1		1	1	1	1	11
シンガポール	1	1	1	1	1	1		1		1	1	9
スリランカ	2	1	1	1	1	1	1	2(内1)	1	2(内1)	1	14(内2)
タイ	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	13
サイプラス				1								1
ジョルダン										1		1
アラブ首長国連邦			1						1			2
イエメン					1							1
ガーナ											1	1
リベリア									1			1
ザンビア								1			1	2
グアテマラ							1					1
メキシコ			1									1
セント・ルシア											1	1
キリバス							1	1				2
FIJ・ニューギニア	1	1	1	1	1		1		1	1	1	9
計	20	18	14	14	14	12	13	15 (内1)	13	13 (内1)	12	158 (内2)

()は個別研修員

(11) 補装具製作技術コース

国別年度別受入実績

国名	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成 元年	2年	計
バングラデシュ	2										2
中国		1	1		1		1				4
インドネシア	1		1	1	1	1		1	1	1	8
香港	1										1
韓国			1	1							2
マレーシア	1	1	1	1			1	1	1	1	8
ミャンマー	1										1
ネパール	1										1
フィリピン		1	1	1	1	1		1	1		7
シンガポール	1						1				2
スリランカ								1	1		2
タイ	1				1	2	2	1	1	1	9
イラク							1		1	1	3
計	9	3	5	4	4	4	6	5	6	4	50

平成2年度より八王子国際研修センターで実施

(12) ハイテク・リサーチ・コース

国別年度別受入実績

国名	61年	62年	63年	平成元年	2年	計
韓国		1				1
マレーシア	1	1	1		1	4
フィリピン			1	1	1	3
シンガポール	1	1		1		3
タイ		1	1	1	1	4
トルコ					1	1
アルゼンチン		1				1
ブラジル	2		2	1	1	6
メキシコ	1					1
合計	5	5	5	4	5	24名

(13) 職業訓練管理セミナー

国別年度別受入実績

国名	昭和52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	計
バングラデシュ			1	1	1	1	1								5
ブータン			1												1
カンボディア														1	1
中国								1							1
インドネシア		1	1	1	1	1	1	1							7
韓国	1	1	1	1				1	1						6
マレーシア		1	1	1	1	1	1	1	1	1		1			10
モルディブ									1						1
ミャンマー	1	1	1	1				1	1	1					7
ネパール		1			1		1	1			1	1	2		8
パキスタン										1					1
フィリピン			1	1		1	1	1		2	1	1	1	2(1*)	12(1*)
シンガポール	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1				10
スリランカ	2	1	1	1		1	1	1	1	1	1				11
タイ	1	1	1	1	1	1	1		2	1				1	11
ジョルダン												1			1
サウジアラビア												1			1
スーダン												1	1		2
トルコ											2				2
イエメン														1	1
ガーナ	1	1	1	1	1										5
象牙海岸			1												1
ケニア	1	1		1	1		1	2	2			1	1	1	12
リベリア						1	1					1	1		4
ナイジェリア		2		1											3
セネガル									1			1	1		3
シェラレオネ							1								1
タンザニア					1	1	1	1							4
ザンビア											1				1
ブラジル	2	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	18
コロンビア										2					2
エクアドル	1										1				2
エルサルバドル		1													1
グアテマラ						1				1		1	1	1	6
ホンデュラス														1	1
ジャマイカ					1										1
パナマ						1	1							1	3
パラグアイ	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1				14
ペルー					1	1	1		1	1					5
セントルシア						1									1
フィジー							1		1						2
モーリシャス														1	1
バハマ								1		1				1	3
ソロモン											1				1
合計	13	16	15	14	13	15	18	16	14	15	11	11	10	12	193 (内1*)

*個別研修員

(14) 衛生行政セミナー

国別年度別受入実績

国名	昭和52年	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元年	2	計
アフガニスタン	1														1
バングラデシュ	1	1						1							3
ブータン			1												1
インドネシア	1	1		1	1	1	2	1				1	1		10
カンボディア														1	1
インド						1									1
大韓民国												1			1
マレーシア								1		1		1			3
ミャンマー		1	1		1										3
ネパール			1							1	1			1	4
パキスタン		1				1									2
フィリピン	1	2		1	1		1	1	2	1			2	1	13
シンガポール		1	1	1	1		1	1	1						7
スリ・ランカ	1								1	1					3
タイ	1	1	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	1	1	22
エジプト									1		1				2
イラク							1	1	1						3
クウェート							1			1					2
サウジアラビア	1										1				2
チュニディア												1	1		2
トルコ					2	1	1		1	1	1				7
アラブ首長国連邦			1		1	1									3
イエメン												1	1	1	3
ガーナ				1											1
ケニア								1		1	1			1	4
リベリア	1				1	1			1	1	1				6
モーリタニア													1		1
ナイジェリア							1			2					3
スーダン	1							1							2
タンザニア	1					1	1								3
ウガンダ								1	1						2
ボリビア							1								1
ブラジル	1			2		2		2	1			1	1	2	12
チリ			1	1											2
コロンビア						1	1	1	1	1		2	2		9
グアテマラ					1										1
ホンデュラス							1	1				1	2		5
パナマ			1												1
パラグアイ			1	1	1	1	1	1			1	1		1	9
ペルー				1								1	1	2	5
ウルグアイ			1	1	1									1	4
バブアニューギニア										1				1	2
ポーランド														5	5
計	11	8	10	12	13	13	15	15	13	14	9	13	13	18	177名

(15) 森林管理計画コース
 国別年度別受入実績

国名	平成2年度
バングラデシュ	1
中国	1
インドネシア	2
マレーシア	1
フィリピン	2
タイ	2
チュニジア	1
ケニヤ	1
タンザニア	2
ブラジル	1
コロンビア	1
ホンデュラス	1
ウルグアイ	1
パプア・ニューギニア	1
計	18名

(16) 一般租税コース

国別年度別受入実績

国名	昭和54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	計
バングラデシュ	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		12
ブータン								1					1
中国						1	1	1		1		1	5
香港	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	11
インドネシア	2	2	2	2	2	1	2		1	1	1	1	17
インド	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
韓国	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1		19
マレーシア	1	1	2	1		1	1	1	1	1	2	1	13
ミャンマー			1	1	1	1	1	1	1	1			8
ネパール	2	1	1	1	2	2	1	1	1				12
パキスタン	2	2	1	1	2	1	1	1	1			1	13
フィリピン		1	2	2	1	1	1	1	1		1	2	13
シンガポール	2	2	2	2	2	2	1			1	1	1	16
スリランカ	2	1	1	1	1	2	1	1		1	1	1	13
タイ		2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	18
アフガニスタン	1												1
エジプト		1	1					1	1	1	1	1	7
エチオピア									1	1	1	1	4
イラン	2	1											3
イラク	2		1	1									4
サウジアラビア		2			1		1	1	1		1	1	8
トルコ	1	1	1	1	1	1	1						7
ガーナ										1	1		2
ケニア										1	1		2
リベリア			1	1	1					1			4
ナイジェリア		1											1
スーダン												1	1
スワジランド										1		1	2
タンザニア					1			1	1	1	1		5
アルゼンティン							1	1	1				3
ボリビア							1						1
ブラジル	1	1	1	1	1	1		1	1			1	9
コスタリカ										1	1		2
グアテマラ									1				1
ハイチ												1	1
パラグアイ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
ペルー					1	1	1						3
ウルグアイ	1					1	1		1	1	1	1	7
パプアニューギニア					1								1
西サモア	1	1											2
トンガ									1				1
計	27	25	25	23	26	24	24	19	20	21	21	20	275

(17) 犯罪防止(刑事司法)コース

国別年度別受入実績

国名	年度 昭和44 ~50年	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成 元年	2	計
バングラデシュ	1	1	1	1	1	1	2	1		1	1		1				12
カンボディア	2																2
中国									1	1	1	1	1				5
香港							2	1	1	1	1						6
インド	5	1		2	1	1		1	1	1	1			1	1	1	17
インドネシア	6	1	1		1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	22
韓国	7	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23
ラオス	6																6
マレーシア	4	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18
ミャンマー			1						2								3
ネパール	3	1	1		1	1	1	1	1	1	1			1	1		14
パキスタン	5	1			1	2	2		1								12
フィリピン	7	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	2	1	2	2	24
シンガポール	7	1	1	2	1	1	1	1	1		1	1		1	1	1	21
スリ・ランカ	6	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1			1		1	19
台湾	2																2
タイ	8		1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	28
ヴェトナム	3																3
アフガニスタン	5	1		1	1												8
イラン	6	1	1	1	1	1											11
イラク		1	1	1	1	1						1					6
ジョルダン														1			1
モロッコ									1								1
サウディ・アラビア												1	1		1		3
スーダン						1		1		1		1	1	1	1	1	8
トルコ						1											1
ギニア											1						1
ケニア														1	1	1	3
レソト													1				1
リベリア												1					1
タンザニア								1						2	1	1	5
ザンビア															1		1
アルゼンチン												1					1
ブラジル				1	1			1									3
チリ							1										1
コロンビア										1	1	1	1				4
コスタリカ										1				1	1	1	4
パナマ			1														1
ペルー										1	1		1				4
ヴェネズエラ																1	1
フィジー				1			1		1		1	1	1	1	1	1	9
ミクロネシア						1											1
バブア・ニューギニア			1		1		1			1	1					1	6
トンガ		1															1
西サモア		1															1
計	83	15	14	14	16	18	18	14	19	17	15	16	15	17	17	17	325

(18) 建設機械整備コース(仏語)

国別年度別受入実績

国名	昭和 61年	62年	63年	平成 元年	2年	計
ベナン	1			1	1	3
ブルンジ			1			1
カメルーン			1			1
中央アフリカ	1	1	1	3(内2)	2	8(内2)
コモロ	2					2
コンゴ	1	1	1	1		4
象牙海岸				1		1
ジブティ			1	1		2
ガボン			1	1	1	3
ギニア					1	1
マリ			1	1		2
モロッコ	1	1				2
ニジェール	1	1	1	2(内1)	1	6(内1)
ルワンダ	1	1	1			3
トーゴ			1	1	1	3
ザイール	1	3		1	1	6
計	9	8	10	13 (内3)	8	48 (内3)

()内は個別研修員

(19) バス・トラック整備技術コース(仏語)

国別年度別受入実績

国名	昭和 54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成 元年	2年	合計
ベナン	1			1	1	1	1	1	1			1	8
ブルキナファソ	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	11
ブルンディ	1				1	1	1	1	1	1	1	1	9
カメルーン		1	1										2
中央アフリカ	1			2		1	1	1	1			1	8
コンゴ				1		1		1		1	1	1	6
ジブティ											1	1*	2(1*)
ガボン		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
ギニア		2	1	1	1		1	1				1	8
マダガスカル						1	1			2	2		6
マリ		1	1		1		1	1		1	1		7
モーリタニア	1												1
モロッコ		1	1						1				3
ニジェール		2	1	1	1		1	2	1	2	2		13
ルワンダ			1		2	1	1	1	1	2	1	1	11
セネガル	1		1	1	1	1	1						6
トーゴ	1			1	1	1	1	1	1		1	1	9
チュニジア									1				1
ザイール	1	1	1	2	1	1		1	1	1		1	11
合計	8	11	10	12	12	11	12	13	10	12	12	11 (1*)	134 (内1*)

(20) 犯罪防止(上級)セミナー

国別年度別受入実績		昭和													平成		合計
国名	昭和50年	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元年	2	
バングラデシュ	1		1		1			1	1	1	1	1		1	1		10
ブルネイ													1				1
中国								1				1	1	1	1	1	6
香港	1	1		1					1	1		1	1	1		1	9
インド	7	1	1	2	2	2	1	2	1	1	1	1	2			1	25
インドネシア	11	1			1	1	1		1		1	1	1	2	2	1	24
韓国	7	1	1		1	1	1	1	1	1	1		1			1	18
ラオス	4																4
マレーシア	5	1	1	1	1	2	1	2	1		1	1	1	1	2	2	23
ネパール	6	1		1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	18
パキスタン	4	1		1	1	1	1	1	1	1	1		1		1	1	16
フィリピン	4	1	1	1	1	1	2	1		1	1		2	1	1		18
シンガポール	5	1	1	1	1	1	1	1		1							13
スリランカ	6	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	1	23
台湾	1																1
タイ	7	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	2	1	28
ヴェトナム	4																4
アフガニスタン	5		1	1													7
イラン	4	1	2														7
イラク	1	1	1	1	1	1		1		1							8
モロッコ							1	1	1								3
サウディ・アラビア									1	1		1	1	1			5
スーダン								1	1	1	1	1	1	1	1		8
トルコ									1								1
アラブ首長国連邦							1										1
ボツワナ																1	1
エチオピア									1								1
ガーナ							1										1
ギニア						1										1	2
ケニア											1	1	1	1	1	1	6
モザンビーク														1			1
ナイジェリア										1		1		1	1		4
タンザニア												1	1				2
アルゼンチン														1	1		2
バルバドス														1			1
ブラジル							1				1				1	1	4
コロンビア										1							1
コスタ・リカ	1						1	1	1	1	1						6
エクアドル												1	1	1	1		4
グアテマラ													1				1
ホンデュラス												1					1
ジャマイカ		1					1					1					3
パナマ												1					1
パラグアイ			1								1			1	1	1	5
ペルー					1					1	1	1	1			1	6
ヴェネズエラ												1					1
フィジー								1	1		1	1		1	1		6
バプアニューギニア											1	1					2
ソロモン															1		1
トンガ				1		1	1			1	1				1		6
西サモア																	2
合計	84	14	12	13	15	16	18	19	20	18	18	22	19	23	24	17	352

(21) 環境技術(大気保全)コース

国別年度別受入実績

国名	昭和59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	平成2年	計
中国			1	1	1	1		4
フィリピン	1	1					1	3
インドネシア	2	1	1		1	1	1	7
マレーシア			1		2	1	1	5
シンガポール	1	1						2
スリランカ				1		1		2
タイ	2	1	1				1	5
サイプラス						1		1
イラン		1	1		1	1		4
シリア				2				2
トルコ		1	1	1				3
モーリシャス							1	1
ブラジル		1	1	1	1	1	1	6
チリ			1		1	2	1	5
コロンビア				1			1	2
キューバ				1				1
ペルー						1		1
メキシコ			1	1	1	2	1	6
ヴェネズエラ				1				1
ギリシャ		1	1					2
計	6	8	10	10	8	12	9	63名

(22) 職業能力開発行政セミナー

国別年度別受入実績

国名	昭和51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元年	2	合計
バングラディシュ												1	1	1		3
中 国												1				1
イ ン ド													1			1
マレーシア													1	1	1	3
ネ パ ール													1	1	1	3
パキスタン												1				1
フィリピン															1	1
シンガポール													1			1
スリ・ランカ													1	1		2
タ イ															1	1
アフガニスタン	1	1	1													3
アルジェリア										1						1
バハレーン	1	1	1	1		1		1	1	1		1				9
エジプト	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1		23
イ ラ ン	2	2		1			2									7
イ ラ ク	1	1	2	2		2		2	1	1						12
ジョルダン		1	1	1	1	2		1	1							8
クウェート			1		1											2
リ ビ ア		1		1		1	1		1							5
モ ロ ッ コ						1			1	2	1	1				6
オ マ ーン								1	1	1						3
カ タ ール			1	1	1	1			1							5
サウジアラビア	2	2		2			1				1	1		2		11
ス ー タ ン	1	1	1	1		1		1	1	1		1			1	10
シ リ ア	1	1	1	1		1	2	2	2	1						12
チュニジア	1		1	1	1		1		1							6
トルコ		1	1		1	1	2	2	2	1	1	1				13
アラブ首長国連邦		1	1	1	1		1			1	1					7
イ エ メ ン						1	1	1	1	1						5
カーボヴェルデ													1			1
中央アフリカ													1			1
ガ ー ナ													1	1		2
ケ ニ ア											1		1	1	1	4
リベリア														1		1
モーリシャス												1				1
モザンビーク												1				1
ナイジェリア															1	1
スワジランド														1		1
ザ イ ール													1			1
ザンビア											1		1	1	2(1)	5(1)
コロンビア															1	1
グアテマラ														1	1	2
ホンデュラス													1	1		2
パラグアイ															1	1
合 計	13	15	14	15	8	14	12	12	15	12	8	12	14	14	12	190

年度別国別研修員受入実績（昭和51～平成2年度）

八王子国際研修センター

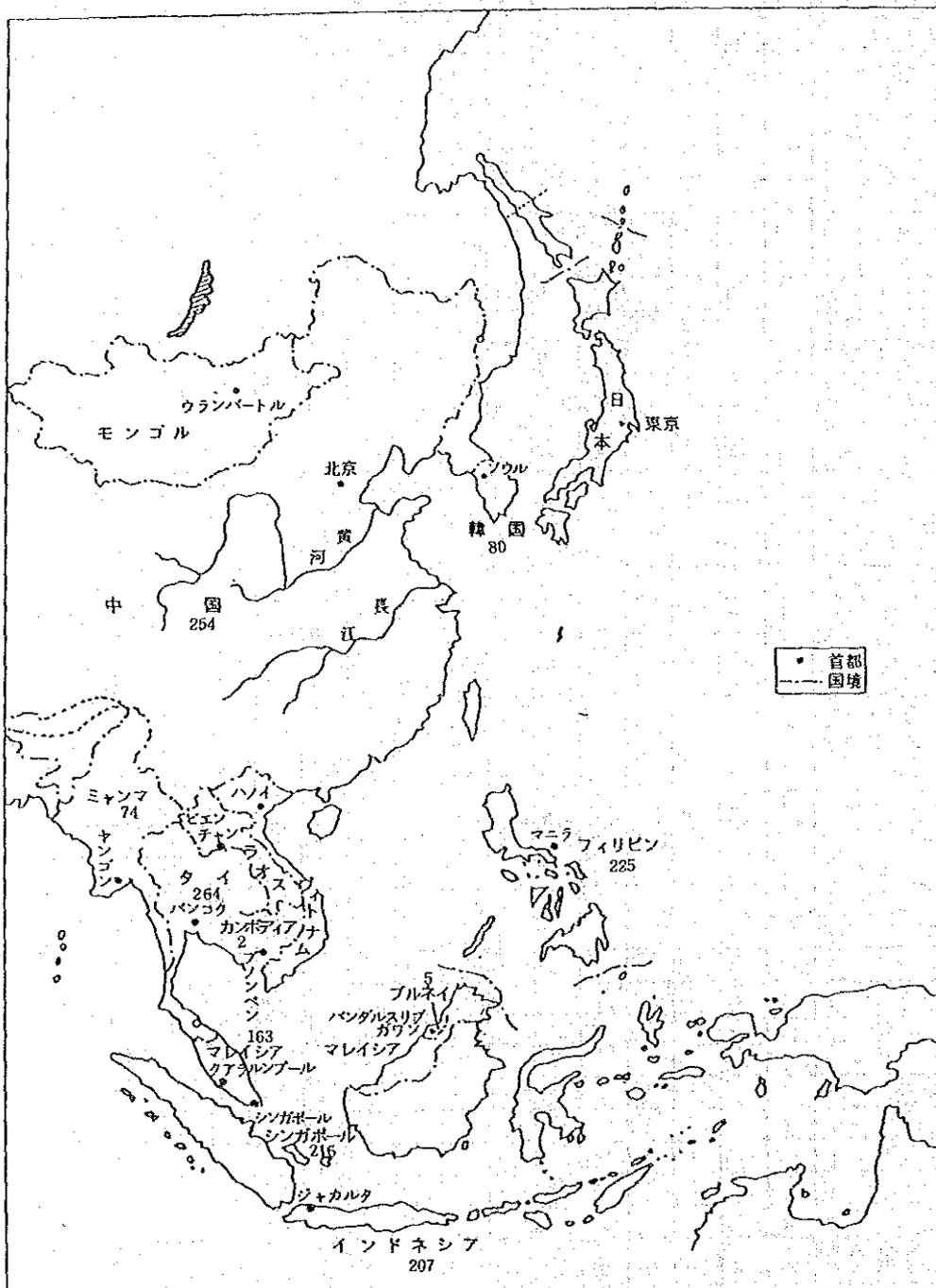
	昭和 51年	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成 元年	2	計
アジア地域	49	112	113	118	130	135	142	151	163	147	127	127	121	129	158	1,922
バングラデシュ	3	3	7	9	5	6	5	6	5	2	3	3	6	4	5	72
ブータン				2								1				3
ブルネイ								2		1	1	1				5
カンボディア															2	2
中国			11	26	21	23	15	23	29	26	29	24	15	6	6	254
香港				1	1	1	2	2	2	2	1	1	3	3	5	24
インド	1	2	3	3	4	4	3	4	5	6	7	4	8	7	9	70
インドネシア	10	23	14	13	16	13	14	16	16	14	9	10	11	13	15	207
韓国		4	7	4	6	6	19	5	9	6	2	3	3	2	4	80
マレーシア	5	9	8	6	11	14	10	11	13	10	12	9	14	12	19	163
モルディブ						1				1					1	3
ミャンマー	1	5	3	2	4	7	9	9	9	7	9	5	4			74
ネパール	2	3	4	5	5	6	3	4	5	3	3	8	5	6	5	67
パキスタン		4	4	4	4	3	4	3	3	3	2	5	1	1	6	47
フィリピン	6	22	17	8	11	16	11	16	14	15	10	16	15	21	28	225
シンガポール	5	6	10	13	13	13	19	27	27	22	16	10	9	12	14	216
スリランカ	8	14	8	12	12	7	9	8	12	12	9	10	9	9	7	146
タイ	8	17	17	10	17	16	19	15	14	17	13	18	18	33	32	264
中近東地域	33	49	40	41	35	35	31	34	33	32	29	42	33	32	25	524
アフガニスタ	3	3	3	2												11
アルジェリア										1						1
バハレーン	1	2	1	1		1		1	3	2		2		1		15
サイプラス								1						1		2
エジプト	7	8	9	6	8	10	7	6	5	5	8	8	5	4	2	98
イラシ	6	7	2	9	3		3	2	1	1	1		1	1		36
イラク	4	6	6	6	2	2	1	4	3	3	2	2	2	3	5	51
ジョルダン	1	1	2	2	3	4		1	1			1	3	1	3	23
クエート			1		1	1		2			1	1				7
レバノン													1			1
リビア	1	2		1		1	1		1							7
モロッコ					1	2			1	2	3	3	1			13
オマーン		1						1	1	1						4
カタール		1	1	2	2				1							7
サウディアラビア	2	6		2	3		1	1	1	2	3	4	1	4	2	32
スーダン	3	3	5	3	1	3	4	5	5	3	5	7	8	9	6	70
シリア	2	2	4	1		2	2	3	2	2		3	2	2		27
チュニジア	1		2	1	2	1	3		2	1		2	1	2	2	20
トルコ	3	5	2	2	6	6	5	5	4	6	5	9	5	3	3	69
アラブ首長国連邦		2	2	2	2	1	3	1		1	1		1			16
イエメン				1	1	1	1	1	2	2			2	1	2	14

	昭和 51年	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成 元年	2	計
アフリカ地域	4	14	13	26	22	25	31	31	31	38	46	44	55	64	59	503
ベナン			1				1	1	1	1	2	1		1	2	11
ボツワナ											1		1		1	3
ブルキナファソ			2	1	1	1	1	1		1	1		1	1	1	12
ブルンディ				1				1	1	1	1	1	2	1	1	10
カメルーン					1	1							1	1	1	5
カーボベルジェ													1			1
中央アフリカ				1			2		2	1	2	2	2	3	3	18
コモロ											2		1			3
コンゴ							1		1		2	1	2	2	1	10
象牙海岸				1										1		2
ディブティ													1	2	2	5
エチオピア	1	2	1									2	1	3	2	12
ガボン					2	1	2	1	1	1	1	1	3	2	2	17
ガーナ	1	5	2	3	4	3	3	2	3	5	4	4	5	8	6	58
ギニア					2	1	1	1		2	1				3	11
ケニア	1	2	2	3	1	2	3	2	6	8	5	5	6	8	10	66
レソト										1						1
リベリア		1	1	3		4	4	5	3	1	3	3	4	4		36
マダガスカル									1	1		1	2	2		7
マリ				1	1	1		1		1	1		2	2		10
マラウイ						1								1		2
モザンビーク												1				1
モーリタニア				1										1		2
モーリシャス												1			2	3
ナイジェリア			3	5	6	3	1	2	1	1	2			1	2	27
ニジェール					2	1	2	1		1	3	2	3	4	1	20
ルワンダ						1		2	1	1	2	2	3	1	1	14
セネガル				1		1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	14
セイシェル												1	1			2
シェラレオーネ								1		1				1		3
スワジランド													1	1	1	3
タンザニア	1	2		1		2	5	5	4	5	6	1	1	2	4	39
トーゴ				1			1	1	1	1	1	1	1	2	2	12
ウガンダ			1		1			1	1	2					1	7
ザイール		1	1	2	1	1	3	1	3		3	7	5	5	4	37
ザンビア		1				1		1			1	5	2	3	6	19

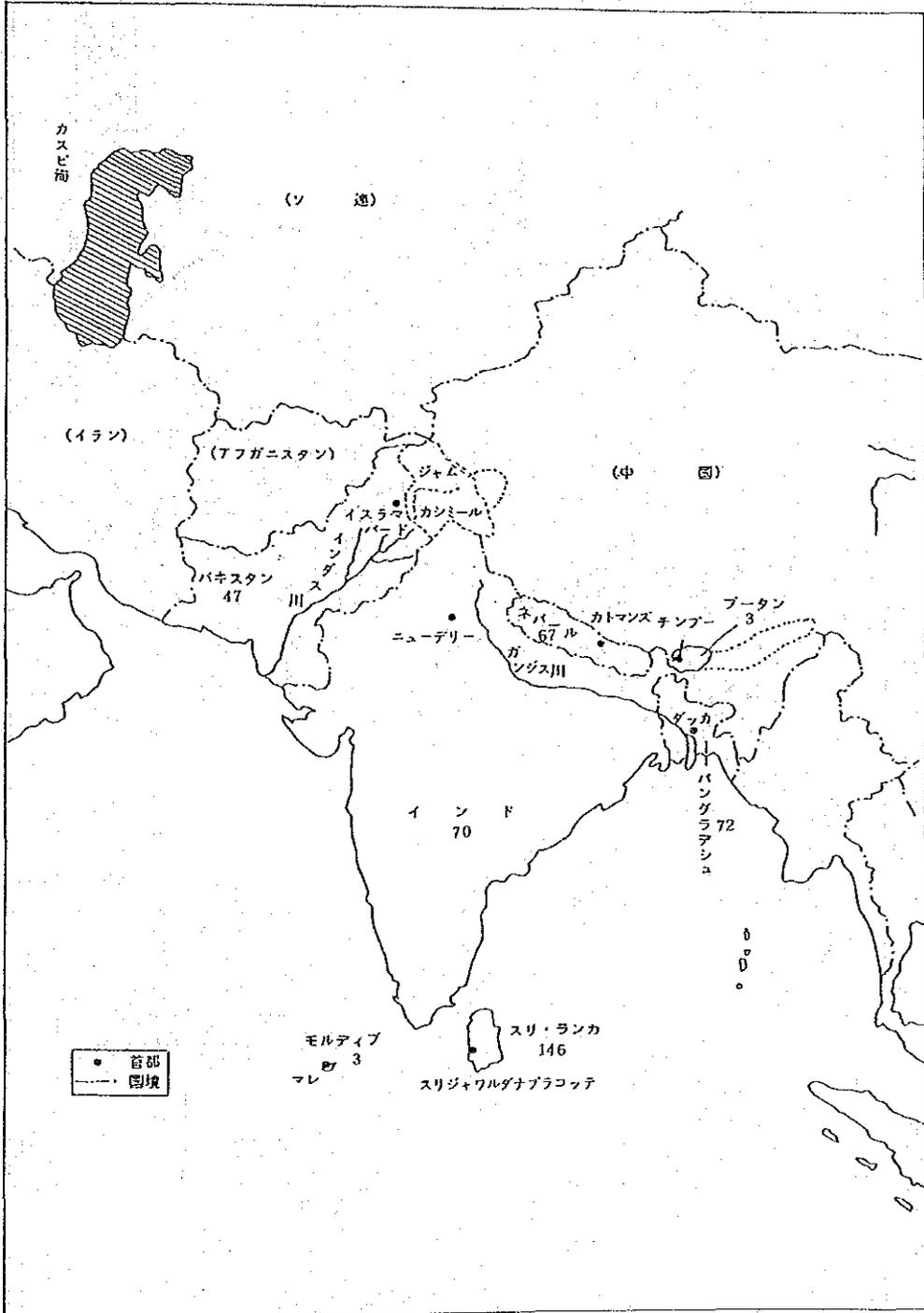
	昭和 51年	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成 元年	2	計
中南米地域	18	35	19	24	28	31	34	33	26	22	35	44	39	41	60	489
アルゼンチン			2					1	1	1	2	4	1	2	2	16
バルバドス						1									1	2
ボリビア	1	1						2		2				1	2	9
ブラジル	1	6	2	5	8	5	9	6	10	7	11	11	10	8	13	112
チリ		2		1	2	2	1				1	1	1	2	2	15
コロンビア		1		1	5	2	1	1	2	1	4	2	2	2	6	30
コスタリカ		1	2							1			1	1	1	7
キューバ	1						1	1				1				4
ドミニカ												2	1	3		6
エクアドル	2	3	1			1	1					1		1		10
エルサルバドル	2	5	1	1											2	11
グアテマラ						1	1				2	2	1	2	2	11
ガイアナ														1		1
グレナダ												1				1
ホンデュラス	1	1			1			1	1				2	2	3	15
ハイティ														1	1	2
ジャマイカ				2		3		2					1			8
メキシコ	1	1	1		2	3	2	4	3	1	7	5	5	5	5	45
ニカラグア	1	2	1			1										5
パナマ		1		2	1	4	5	1		1					1	16
パラグアイ		2	3	5	4	4	6	6	5	4	3	8	8	3	7	68
ペルー	7	7	4	5	4	4	7	7	3	3	4	1	2	3	4	65
トコカラネゼ												1				1
セントルシア								1							1	2
ウルグアイ	1	1	1	2	1				1	1	1	1	2	2	4	18
ヴェネズエラ		1	1									1	2	1	3	9
太平洋地域	1	5	1	2	5	4	3	4	6	4	7	4	2	5	12	65
フィジー	1	1	1			1	1	1	2	3				2	5	18
キリバス									1		1	1	1	2		6
バングニア		2		1	4	3	2	3	3	1	5	1	1	1	7	34
西サモア		1									1					2
ソロモン												1				1
トンガ		1			1	1						1				4
ヨーロッパ										1	1	1			26	29
ギリシヤ										1	1					2
ハンガリー															20	20
マルタ															1	1
ポーランド															5	5
ユーゴ												1				1
全地域総計	105	215	186	211	220	230	241	253	259	244	245	262	250	271	340	3,532

研修員受入実績の地域・国別分布状況

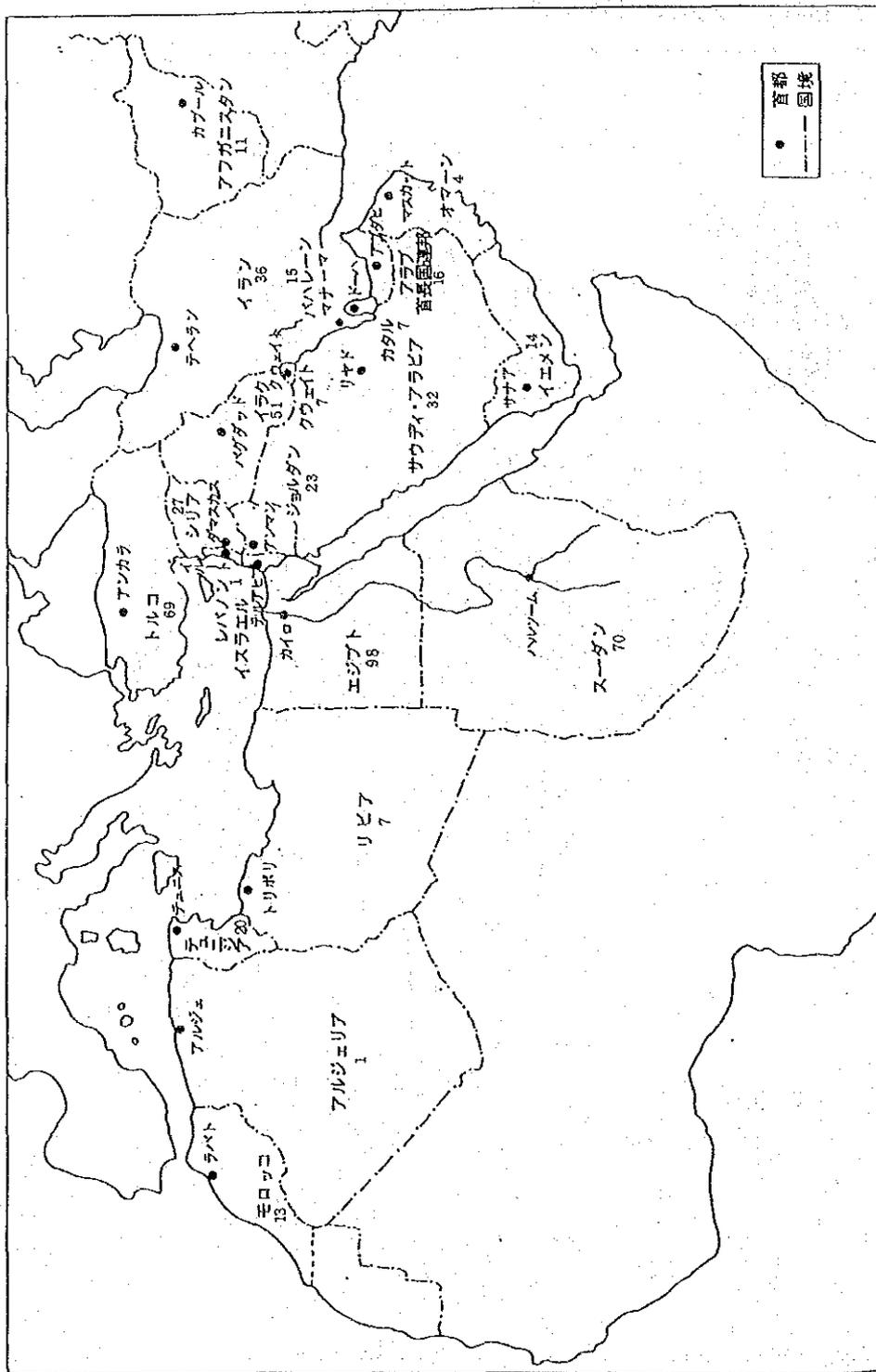
1. 東アジア地域



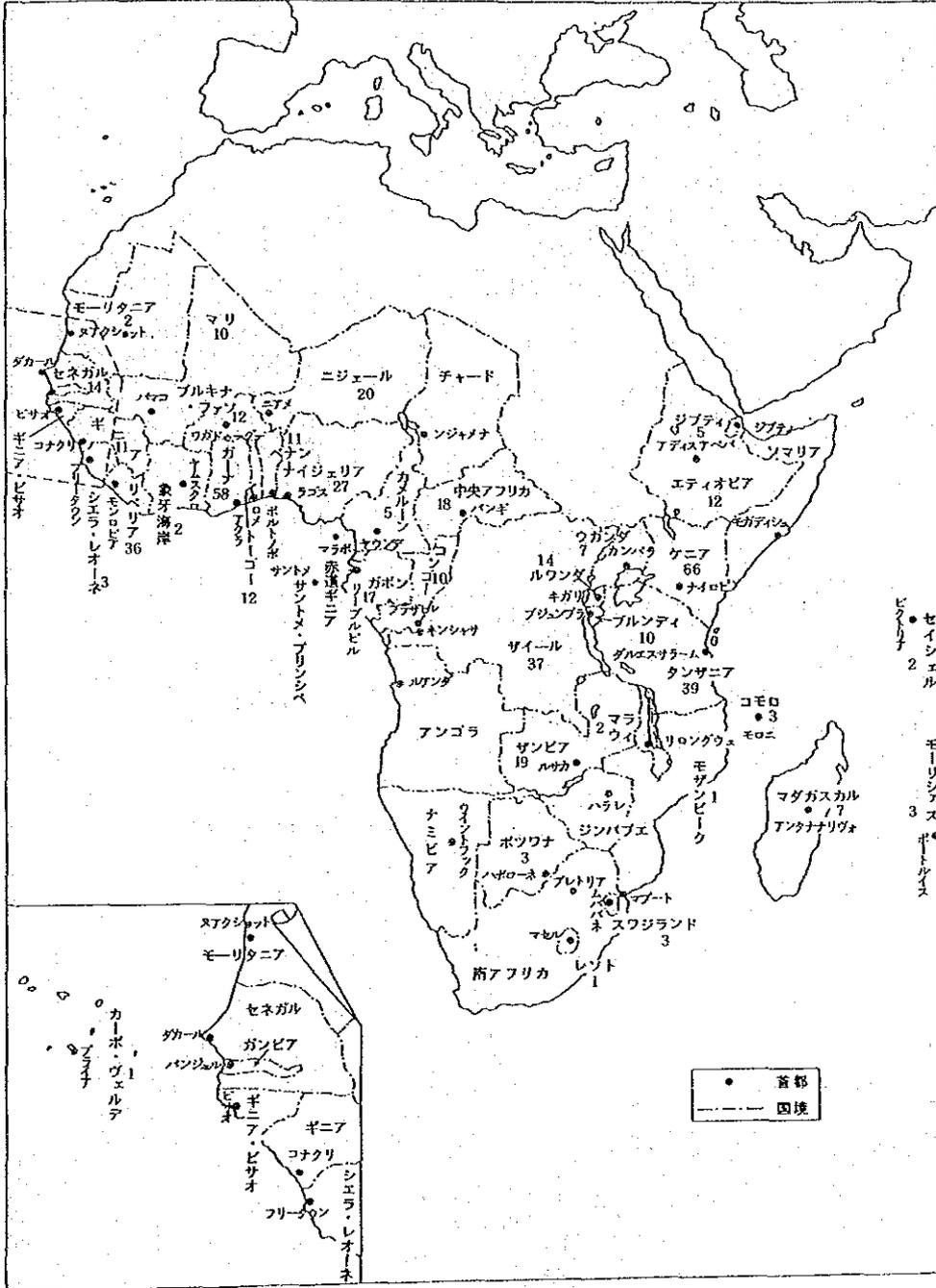
2. 南西アジア地域



3. 中近東地域



4. アフリカ地域



6. 大洋州地域

